総務常任委員会記録

令和6年 第1回定例会	
1 日 時	令和6年3月12日（火） 午前10時00分 開会 午後 2時53分 閉会
2 場 所	第1委員会室
3 出席委員	横尾武男 委員長 藤田義昭 副委員長 橋本勝浩 委員 梶原隆 委員 舘野裕昭 委員 大貫毅 委員 谷中恵子 委員 津久井健吉 委員
4 欠席委員	なし
5 委員外出席者	阿部秀実 議員 船生雅秀 議員 早川勝弘 議員
6 説明員	別紙のとおり
7 事務局職員	萩原 書記
8 会議の概要	別紙のとおり
9 傍聴者	1人

総務常任委員会 説明員

副市長		福田 義一	1名
秘書室	秘書室長	益子 則男	1名
総合政策部	総合政策部長	秋澤 一彦	10名
	危機管理監	星野 栄一	
	総合政策課長	齋藤 史生	
	財政課長	半田 和之	
	いちご市営業戦略課長	柏熊 隆夫	
	地域課題対策課長	大場 隆光	
	デジタル政策課長	柿沼 紀子	
	地域課題対策担当	北島 礼弘	
	総合政策課総務係長	川田 孝郎	
	財政課財政係長	野口 理恵	
行政経営部	行政経営部長	篠原 宏之	6名
	行政経営課長	網 浩史	
	人事課長	小泉 宏	
	税務課長	鈴木 智久	
	納税課長	小林 春彦	
	契約検査課長補佐	亀山 努	
市民部	市民部長	福田 浩士	5名
	生活課長	佐藤 美樹子	
	協働のまちづくり課長	松島 貴行	
	市民課長	青木 康子	
	人権・男女共同参画課長	斎藤 正幸	
会計課	会計管理者	渡辺 富夫	1名
議会事務局	議事課長	渡辺 稔近	1名
選挙管理委員会事務局	選挙管理委員会事務局長	湯澤 紀之	1名
監査委員事務局	監査委員事務局長	仲田 順一	1名
消防本部	消防長	若林 雄二	6名
	消防総務課長	渡邊 靖	
	予防課長	曾篠 伸次	
	地域消防課長	大島 賢一	
	警防救急課長	稗田 隆	
	通信指令課長	永岡 和也	
都市建設部	建築指導課長	塙 純人	1名
教育委員会	学校給食共同調理場長	平田 昌代	1名
合 計			35名

総務常任委員会 審査事項

- 1 議案第 1 号 専決処分事項の承認について（令和 5 年度鹿沼市一般会計補正予算（第 1 0 号））
- 2 議案第 2 号 令和 6 年度鹿沼市一般会計予算について
- 3 議案第 7 号 令和 6 年度鹿沼市粕尾財産区特別会計予算について
- 4 議案第 8 号 令和 6 年度鹿沼市清洲財産区特別会計予算について
- 5 議案第 1 1 号 令和 5 年度鹿沼市一般会計補正予算（第 1 1 号）について
- 6 議案第 1 4 号 損害賠償の額の決定及び和解について
- 7 議案第 1 5 号 辺地に係る総合整備計画の変更について
- 8 議案第 1 8 号 物品購入契約の締結について
- 9 議案第 2 3 号 鹿沼市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律施行条例の一部改正について
- 10 議案第 2 4 号 鹿沼市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正について
- 11 議案第 2 5 号 鹿沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について
- 12 議案第 2 6 号 退職手当の支給事務等を栃木県市町村総合事務組合において共同処理することに伴う関係条例の整理に関する条例の制定について
- 13 議案第 2 7 号 鹿沼市手数料条例の一部改正について
- 14 議案第 4 3 号 令和 6 年度鹿沼市一般会計補正予算（第 1 号）について
- 15 議案第 4 4 号 令和 5 年度鹿沼市一般会計補正予算（第 1 2 号）について
- 16 議案第 4 5 号 鹿沼市税条例の一部改正について

令和6年第1回定例会 総務常任委員会概要

○横尾委員長 開会に先立ちまして、お願いをいたします。

委員の質疑及び執行部の説明、答弁に際しましては、会議を録音しておりますので、マイクにより明瞭にお願いいたします。

また、付託された議案については、慎重な審議の上、スムーズな進行をお願いいたします。

それでは、ただいまから総務常任委員会を開会いたします。

今議会に、本委員会に付託されました案件は、議案16件であります。

それでは、早速審議に入ります。

はじめに、議案第1号 専決処分事項の承認について（令和5年度鹿沼市一般会計補正予算（第10号））についてのうち、総務常任委員会関係予算を議題といたします。

執行部の説明をお願いいたします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 おはようございます。財政課長の半田と申します。よろしくようお願いいたします。

議案第1号 「令和5年度鹿沼市一般会計補正予算（第10号）」のうち、関係予算の内容についてご説明いたします。

この補正は、国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」として実施する給付金・定額減税一体支援のうち、住民税均等割のみ課税世帯への給付事業及び低所得子育て世帯への給付事業について、関係予算を1月31日付けで専決処分をしたものであります。

お手元の「令和5年度補正予算に関する説明書」の、表紙に「一般会計（第10号）」と入っているものになりますが、その3ページをお開きください。

歳入についてご説明いたします。

15款「国庫支出金」2項1目「総務費国庫補助金」の右側のページの説明欄、「地方創生臨時交付金」3億8,475万円の増につきましては、住民税均等割のみ課税世帯への給付事業及び低所得子育て世帯への給付事業に係る財源として計上するものであります。

なお、補助率は10分の10であります。

以上で、「令和5年度鹿沼市一般会計補正予算（第10号）」のうち、関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次発言を許します。はい。梶原委員。

○梶原委員 梶原です。よろしくお願いいたします。

同じく説明書の9ページ、繰越明許費ということで、今回の物価高騰緊急支援給付金給付事業になっていますけれども、説明をお願いします。

○横尾委員長 執行部の説明を求めます。はい。半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

こちらの物価高騰緊急支援給付金給付事業費につきましては、歳出のほうで予算を計上しております。

内容につきましては、教育福祉常任委員会のほうで検討させていただくこととなりますが、こちらにつきましては歳出の事業、2月・3月で、まず給付のほうを進めてございますが、4月以降に給付が延びることがありますので、今回、繰越明許費の設定をしたものになります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。説明は終わりました。梶原委員。

○梶原委員 2月・3月で給付するのだけれども、間に合わないので、4月以降もということなのですけれども、4月になってしまう理由というのは何かありますか。

○横尾委員長 執行部の説明を求めます。はい。半田財政課長。

○半田財政課長 はい、梶原委員の質問にお答えいたします。

こちらにつきましては、教育福祉常任委員会の内容になりますので、申し訳ございませんが、教育福祉委員会のほうで協議をしていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

○梶原委員 わかりました。

○横尾委員長 はい。ほかにございませんか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第1号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり承認することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第1号中、総務常任委員会関係予算につきましては、原案どおり承認することに決しました。

次に、議案第2号 「令和6年度鹿沼市一般会計予算について」のうち、総務常任委員会関係予算を議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第2号 「令和6年度鹿沼市一般会計予算」のうち、秘書室、総合政策部、会計課、選挙管理委員会事務局及び監査委員事務局・公平委員会所管の関係予算、主な内容についてご説明をいたします。

令和6年度「予算に関する説明書」一般会計の7ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明いたします。

上から3段目の、7款「地方消費税交付金」につきましては、本年度の交付実績見込みなどから、前年度対比4.2%増の25億円を計上いたしました。

その3段下になりますが、10款1項1目「地方特例交付金」につきましては、国施策として実施する定額減税による住民税の減収補填としまして、1款「個人市民税」での減収見込みとなる4億円を計上し、合計として、前年度対比371.4%増の4億9,500万円を計上いたしました。

その下の、2項1目「新型コロナウイルス感染症対策地方税減収補填特別交付金」につきましては、地方税法に規定する新型コロナウイルス感染症等にかかる先端設備等に該当する家屋及び償却資産等に対する課税の特例措置による減収補填としまして、令和5年度の申告実績により、1,400万円を計上いたしました。

その下の11款「地方交付税」の説明欄「普通交付税」につきましては、令和5年度の交付実績や、国が示す「令和6年度地方財政計画」等を勘案し、前年度対比9.8%増の56億円を計上いたしました。

17ページをお開きください。

下段の、15 款「国庫支出金」2 項 1 目「総務費国庫補助金」の説明欄の 4 行目「地方創生事業費国庫補助金」260 万 5,000 円につきましては、企業支援センター事業の財源として計上するもので、補助率は対象事業費の 2 分の 1 となっております。

次の行の、「地方創生臨時交付金」につきましては、物価高騰対策として実施するキャッシュレス決済ポイント還元事業、プレミアム付き商品券発行支援事業等の財源として計上するものです。

1 節の一番下の行、「デジタル田園都市国家構想交付金」2,434 万 2,000 円につきましては、行政手続のオンライン申請システムの利用料やスマート農業補助金、公衆 Wi-Fi の導入費用等の財源として計上するもので、補助率は対象事業費の 2 分の 1 となっております。

21 ページをお開きください。

下段の、16 款「県支出金」2 項 1 目「総務費県補助金」の説明欄の 2 行目「市町村総合交付金事業費県補助金」につきましては、本年度の交付実績見込みをもとに 3,454 万 8,000 円を計上いたしました。

次の行の「防災対策推進費県補助金」100 万円につきましては、自主防災会の設立支援の財源として計上したものであります。

その次の行の、「地方創生事業費県補助金」450 万円につきましては、都市住民等を対象とした移住支援補助金などを計上したものであります。

その 6 行下になりますが、「水源地域整備事業費県補助金」4,113 万 2,000 円につきましては、南摩ダム関連の水源地域整備事業として、林道や携帯電話基地局整備などの財源として計上したものであります。

また、その下の、「水源地域振興事業費県補助金」1,232 万 9,000 円につきましては、南摩ダム関連の地域振興対策事業として、本年 4 月 13 日にオープンするスノーピーク鹿沼キャンプフィールド&スパのオープニングイベントや西北部周遊マップ作成等の振興事業、上下流交流事業等の財源として計上したものです。

少し飛びまして、31 ページをお開きください。

上段の、18 款「寄附金」、1 項 1 目「総務費寄附金」の右側の 2 節「ふるさとかぬま寄附金」につきましては、前年度と同額の 3 億円を計上いたしました。

中段の、19 款「繰入金」1 項 2 目「栗野財産区繰入金」につきましては、栗野地区における防犯灯電気料補助や自治公民館修繕補助等の財源の一部として、栗野財産区から繰り入れるものであります。

次の段の、2 項「基金繰入金」につきましては、各基金からの繰り入れを行うものであります。

このうち、2 目「財政調整基金繰入金」3 億 2,000 万円につきましては、財源調整のため繰り入れるものであります。

次の、3 目「減債基金繰入金」6,068 万 3,000 円につきましては、令和 5 年度の普通交付税において、令和 6 年度及び令和 7 年度の臨時財政対策債の償還費用の一部として、追加交付がされております。その交付額を基金に積み立て、両年度で繰り入れることと、国より示されたことから、起債償還費として交付された額の 2 分の 1 を繰り入れするものであります。

33 ページをお開きください。

上から2行目、5目「かぬま・あわの振興基金繰入金」7億3,300万9,000円につきましては、このうち、基金利子分及び前年度に受け入れた「ふるさとかぬま寄附金」の用途目的ごとに、「子育て保健サービス事業」や「観光イベント事業」など14事業の財源として繰り入れるものが1億8,466万4,000円であります。

このほか、「鹿沼インター産業団地整備事業」や、「医王寺金堂茅葺屋根、磯山神社本殿等の修繕補助」、また、「ふるさと納税推進事業」の財源としまして、5億4,834万5,000円を繰り入れるものであります。

37 ページをお開きください。

22款「市債」1項8目「臨時財政対策債」につきましては、国の地方財政計画等を踏まえ、前年度比64.3%減の1億円を計上するものであります。

41 ページをお開きください。

次に、歳出についてご説明いたします。

2款「総務費」1項1目「一般管理費」につきましては、そのほとんどが経常的な事務経費であります。

46 ページをお開きください。

説明欄の上から3つ目の「○」、「出納事務費」710万7,000円につきましては、令和6年10月から始まる足利銀行等への公金取扱手数料有償化に伴う所要額等を計上したものであります。

次の「○」、「防災対策推進費」2,233万8,000円につきましては、自主防災会への資機材支給経費や、防災情報伝達システム、災害情報共有システム等の保守料、栗野地区の防災行政無線パンザマスト撤去工事などを計上するものであります。

48 ページをお開きください。

説明欄の上から4つ目の「○」、「ふるさと納税推進事業費」1億4,383万1,000円につきましては、ふるさと納税をしていただいた方への返礼品等の関係経費を計上したものであります。

49 ページをお開きください。

2目「総合企画費」の説明欄、上から3つ目の「○」、「まちづくり戦略事業費」1,393万3,000円につきましては、地域おこし協力隊の活動経費や本市への移住支援補助金等を計上したものであります。

3目「行政情報システム管理費」の説明欄、「行政情報ネットワーク管理事業費」3億3,604万7,000円につきましては、行政情報ネットワークの維持管理経費、システム利用などのほか、オンライン申請システムの導入及び運用経費などを計上したものであります。

51 ページをお開きください。

4目「広報広聴費」の説明欄の1つ目の「○」、「広報広聴活動費」2,001万4,000円につきましては、広報紙の発行や市ホームページの運用等に係る経費を計上したものであります。

54 ページをお開きください。

説明欄の1つ目の「○」、「営業戦略費」525万5,000円につきましては、いちご市を

PRするためのイベント開催経費やデジタル広告費などを計上したものであります。

65 ページをお開きください。

11 目の「地域振興費」となりますが、詳細につきましては、68 ページをお開きください。

説明欄の1つ目の「○」、「水源地域振興事業費」2,688 万円につきましては、南摩ダムの水源地域振興のための携帯電話基地局整備工事等に係る経費を計上したものであります。

説明欄の一番下の「○」、「かぬま・あわの振興基金積立金」2 億 3,684 万 4,000 円につきましては、ふるさと納税による寄附受け入れ額及び基金利子収入を積み立てるものであります。

少し飛びまして、77 ページをお開きください。

下段の4項3目「栃木県知事選挙費」4,256 万 1,000 円、79 ページになりますが、4 目「市長選挙費」4,395 万 9,000 円につきましては、令和6年度に執行が予定されている、「栃木県知事選挙」、「市長選挙」の関係経費について計上したものであります。

81 ページをお開きください。

5 項2目「基幹統計費」994 万 3,000 円につきましては、5 年ごとに実施される「農林業センサス」や「家計構造調査」の関係経費などを計上したものであります。

飛びまして、231 ページをお開きください。

2 段目の、12 款「公債費」につきましては、市債借り入れ先からの償還予定に基づく、元金及び利子の償還に要する経費を計上したものであります。

以上で、「令和6年度鹿沼市一般会計予算」のうち、総合政策部等所管の主な関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 はい、網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。よろしくお願いたします。

議案第2号 「令和6年度鹿沼市一般会計予算」のうち、行政経営部所管の関係予算の主な内容についてご説明をいたします。

令和6年度「予算に関する説明書」一般会計の3ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明をいたします。

1 款「市税」、1 項1 目「個人」につきましては、社会活動の持ち直しがみられるものの、国の経済対策に伴う定額減税の影響などにより、前年度対比 4.5%減の 48 億 4,042 万 3,000 円を計上いたしました。

次に、2 目「法人」につきましては、令和5年度の決算見込み額から前年度対比 6.2%増の 13 億 661 万円を計上いたしました。

次に、2 項1 目「固定資産税」であります、「土地」につきましては、地価下落による減収、「家屋」につきましては、評価替えに伴う減収、「償却資産」につきましては、過去5年間の動向から増収を見込み、全体では前年度対比 1.8%減の 65 億 9,060 万 3,000 円を計上いたしました。

5 ページをお開きください。

上から2 段目、6 項「都市計画税」につきましては、固定資産税と同様の理由から、前年度対比 2.0%減の 7 億 8,115 万 6,000 円を計上いたしました。

9 ページをお開きください。

一番下の段、14款「使用料及び手数料」1項1目「総務使用料」であります。1節「総務管理使用料」の説明欄3行目、「市庁舎等行政財産使用料」812万円につきましては、旧栗野庁舎などの使用料を計上いたしました。

13ページをお開きください。

下段の、2項1目「総務手数料」の説明欄、「徴税手数料」につきましては、これまでの実績をもとに推計し、2行目の「不動産納税証明手数料」は673万9,000円を、4行目の「督促手数料」は225万円を計上いたしました。

25ページをお開きください。

下段の、16款「県支出金」、3項1目「総務費委託金」2節「徴税費委託金」の説明欄2行目、「県税徴収費委託金」1億9,258万7,000円につきましては、個人県民税の賦課徴収の取り扱いに対する県からの委託金として計上したものであります。

27ページをお開きください。

下段の、17款「財産収入」であります。1項2目「財産貸付収入」の説明欄、2行目の「土地・建物賃貸料」2,046万9,000円につきましては、土地や建物の貸し付けのほか、本庁舎への自動販売機設置、及び市民課前にあります広告付き窓口番号表示システム設置などによる収入であります。

29ページをお開きください。

上段の、1項3目「命名権料収入」302万円につきましては、TKCいちごアリーナなど4施設のネーミングライツ料であります。

下段の、2項1目「不動産売払収入」の説明欄一番上、「不動産売払収入」2,821万7,000円につきましては、市有地5区画などの売り払いを見込んだものであります。

31ページをお開きください。

一番下の段、19款「繰入金」であります。2項「基金繰入金」の1目「退職手当基金繰入金」2億4,737万1,000円につきましては、新たに退職手当に関する事務を、栃木県市町村総合事務組合において共同処理するための負担金の財源として、4目「公共施設整備基金繰入金」4億3,644万6,000円につきましては、ごみ処理施設修繕工事や栗野運動公園野球場防球ネット設置工事などの財源として繰り入れするものであります。

35ページをお開きください。

中段の、21款「諸収入」、4項3目「雑入」であります。説明欄5行目「派遣職員収入」1,024万円につきましては、栃木県後期高齢者医療広域連合、及び宇都宮西中核工業団地事務組合に派遣している職員2名分の人件費相当額を収入として計上したものであります。

一番下の段、22款「市債」、1項1目「総務債」であります。説明欄2行目「公共施設除却事業債」4,600万円につきましては、旧北犬飼コミュニティセンターと旧西大芦コミュニティセンターの除却工事の財源として計上したものであります。

続きまして、歳入についてご説明をいたします。

あ、はい、失礼いたしました。

続きまして、歳出についてご説明をいたします。

46ページをお開きください。

2款「総務費」1項1目「一般管理費」の説明欄、2つ目の「○」、「契約検査事務費」

1,416万3,000円につきましては、電子入札を執行するための電算処理委託料や、建築工事などの完成検査を専門機関に委託するための経費のほか、入札案件、業者情報、工事成績の評定を管理するためのシステム借上料の費用を計上したものであります。

48ページをお開きください。

説明欄2つ目の「○」、「職員研修費」1,036万3,000円につきましては、新規採用職員研修や各種専門研修の負担金など、職員の研修にかかる経費を計上したものであります。

その下の「○」、「福利厚生費」1,209万円につきましては、職員の健康診断やストレスチェックなどの委託料のほか、メンタルヘルス研修講師謝礼やカウンセラーの報酬などを計上したものであります。

57ページをお開きください。

一番下の8目「財産管理費」であります。説明欄1つ目の「○」、「普通財産管理費」6,730万円につきましては、老朽化により周辺環境への悪影響が懸念されます旧北犬飼コミュニティセンターと、旧西大芦コミュニティセンターの解体設計、及び解体工事のほか、普通財産として管理している施設や、市有地の維持管理に要する経費を計上したものであります。

60ページをお開きください。

説明欄1つ目の「○」、「庁舎等維持管理費」1億1,179万2,000円につきましては、本庁舎の設備管理業務委託のほか、IP電話機などの施設・器具借上料などに要する経費を計上したものであります。

63ページをお開きください。

9目「集中管理費」であります。説明欄1つ目の「○」、「庁用共通管理費」1億1,606万6,000円につきましては、全庁で使用する再生紙購入、及び郵送用封筒印刷のほか、郵便料などに要する経費を計上したものであります。

説明欄一番下の「○」、「公用車等管理費」2,562万9,000円につきましては、2トントラックの購入、公用車の燃料費、及び自動車保険のほか、公用車リース料などに要する経費を計上したものであります。

73ページをお開きください。

2項1目「税務総務費」であります。説明欄3つ目の「○」、「税務事務費」77万円につきましては、税務事務に要する消耗品のほか、大規模災害時において被災者に対する迅速な生活支援を図るため、住家被害認定調査員育成研修に要する経費を計上したものであります。

2項2目「賦課徴収費」であります。説明欄2つ目の「○」、「賦課事務費」1億81万5,000円につきましては、市民税や固定資産税などの賦課事務に要する電算処理委託料や、各種帳票類の印刷のほか、次期評価替えに伴う路線価資料作成などに要する経費を計上したものであります。

説明欄3つ目の「○」、「徴収事務費」1,612万8,000円につきましては、市税の徴収事務に要する電算委託料、各種帳票類印刷費などの経費を計上したものであります。

以上で、「令和6年度鹿沼市一般会計予算」のうち、行政経営部所管の主な関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。佐藤生活課長。

○佐藤生活課長 生活課長の佐藤です。よろしくお願いいたします。

続きまして、「令和6年度鹿沼市一般会計予算」のうち、市民部関係予算の主な内容について、説明いたします。

まず、歳入について、説明いたします。

令和6年度「予算に関する説明書」、一般会計の11ページをお開きください。

14款 「使用料及び手数料」、1項3目、「衛生使用料」、右側のページ、1節「保健衛生使用料」の説明欄、4行目「見笹霊園永代使用料」 925万5,000円は、見笹霊園内墓地の新規に使用する27区画分を見込んだものであります。

次に、13ページをお開きください。

2段目、2項1目、「総務手数料」、右側のページ、2節、「戸籍住民基本台帳手数料」3,892万6,000円は、住民票の写しや印鑑登録証明書、戸籍謄抄本の交付に係る手数料であります。

次に、17ページをお開きください。

2段目、15款 「国庫支出金」、2項1目、「総務費国庫補助金」の右側のページ、2節、「戸籍住民基本台帳費国庫補助金」 2,723万2,000円は、マイナンバー関係事務の委託に係る交付金であります。

次に、21ページをお開きください。

16款 「県支出金」、2項1目、「総務費県補助金」の説明欄、上から6行目、「バス路線対策費県補助金」 373万6,000円は、リーバスの円滑な運行に対する県補助金であります。

続いて、歳出について、説明いたします。

55ページをお開きください。

2款 「総務費」、1項5目、「交通対策費」の説明欄、1つ目の「○」、「バス路線対策費」 2億785万3,000円は、市民生活の足を確保するためのリーバス及び予約バスの運行等に要する経費であり、そのうち、2億円が運行事業者への補助金であります。

次に、61ページをお開きください。

8目、「財産管理費」の説明欄、2つ目の「○」、「コミュニティセンター維持管理費」7,037万4,000円につきましては、市内14コミセンの光熱水費や施設の修繕費、清掃業務をはじめとする各種委託料等に係る経費であります。

次に、65ページをお開きください。

11目、「地域振興費」の説明欄、1つ目の「○」、「協働のまちづくり推進事業費」の「ふるさと納税型クラウドファンディング活用公益活動支援事業」100万円は、団体が実施する公益性の高い事業に対して、市がふるさと納税型クラウドファンディングにより寄附金を募集し、その寄附額に応じて、団体へ支援するための補助金であります。

説明欄3つ目の「○」、「地域のチカラ協働事業費」9,000万円は、市内17地区で取り組む防犯、福祉、環境などの事業や、住民主体により地域の課題解決や地域振興に取り組む持続可能な事業を支援するための補助金であります。

次に、75ページをお開きください。

2 段目、3 項 1 目、「戸籍住民基本台帳費」の説明欄中段「住民基本台帳費」1,160 万 4,000 円は、印鑑登録証明書や住民票の写しなどの証明書の交付、転入届や転居届などの届出処理に係る経費であります。

その次の「マイナンバー事務費」2,856 万 2,000 円は、マイナンバーカードの交付などに係る経費であります。

次に、97 ページをお開きください。

3 款「民生費」、1 項 5 目「人権対策費」の説明欄、上から 4 番目の「○」、「人権施策推進事業費」234 万 1,000 円につきましては、人権意識高揚のための啓発や講演会の開催に要する経費であります。

次に、99 ページをお開きください。

6 目「女性青少年費」の説明欄、上から 5 番目の「○」、「男女共同参画推進事業費」406 万 7,000 円につきましては、男女共同参画推進指導員の報酬及び講座や講演会等の学習機会の提供に要する経費であります。

次に、127 ページをお開きください。

4 款「衛生費」、1 項 7 目「墓地埋葬費」の説明欄、1 つ目の「○」、「斎場費」4,526 万 6,000 円につきましては、火葬業務委託料のほか、施設の維持管理や新たに導入する斎場予約システムに係る経費であります。

次に、130 ページをお開きください。

説明欄、上から 2 番目の「○」、「見笹霊園費」2,854 万 8,000 円につきましては、霊園内の清掃業務委託料等施設の維持管理に係る経費のほか、新たに整備する、複数の方のご遺骨をまとめて埋葬する合葬墓の設計業務委託等の経費であります。

以上で、「令和 6 年度鹿沼市一般会計予算」のうち、市民部の主な関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 渡邊消防総務課長。

○渡邊消防総務課長 消防総務課長の渡邊です。よろしくお願いいたします。

議案第 2 号 「令和 6 年度鹿沼市一般会計予算」のうち、消防本部において所管する予算の主な内容について、ご説明いたします。

令和 6 年度「予算に関する説明書」一般会計の 15 ページをお開きください。

まず、歳入について、ご説明いたします。

14 款「使用料及び手数料」、2 項 5 目「消防手数料」につきましては、法令等に基づく危険物タンクの検査手数料などで、過去 5 年間の実績から推計し、1,431 万 5,000 円を計上いたしました。

次に、歳出について、ご説明いたします。

185 ページをお開きください。

9 款「消防費」、1 項 1 目「常備消防費」につきましては、そのほとんどが経常的経費でございます。

主な内容であります。186 ページ、説明欄の一番下の「○」、「消防庁舎維持管理費」のうち、188 ページ、説明欄の上から 2 行目、14 節「工事請負費」6,770 万円につきましては、消防本部に設置しております非常用発電設備の改修工事に要する経費であります。

次に、191 ページをお開きください。

192 ページ、説明欄の上から 2 番目の「○」、「非常備消防施設整備事業費」のうち、14 節「工事請負費」3,600 万円につきましては、第 10 分団第 4 部車庫詰所の建築に要する経費でございます。

続いて、17 節「備品購入費」2,129 万 6,000 円につきましては、第 9 分団第 2 部の消防車両更新に要する経費であります。

以上で、「令和 6 年度鹿沼市一般会計予算」のうち、消防本部において所管する主な説明を終わります。

○横尾委員長 執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次発言を許します。はい。梶原委員。

○梶原委員 梶原です。お願いします。

では、まず歳入から伺っていきたくと思うのですが、3 ページですね、市税、1 款市税についての、まず市民税から 7 項の入湯税までのところなのですが、例えば 4 ページ、説明欄、個人均等割、個人所得割とありますけれども、これ、まず、均等割のほうの納税義務者数と税率、あと調定見込み額、収納率、収納見込み額、これが金額になると思いますけれども、これについてと。

あと個人所得割については、課税標準額、税率、調定見込み額、収納率、収納見込み額。

法人税につきましては、法人均等割になっていますけれども、こちらも納税義務者数、法人数ですね。あと調定見込み額、収納率、収納見込み額、あと法人税額については課税標準額と税額、調定見込み額、収納率、収納見込み額、まずはここまでお聞きします。

○横尾委員長 執行部の説明を求めます。はい。鈴木税制課長。あ、違う、税務課長だね。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木と申します。よろしくお願いします。

まず個人の、まず均等割についてなのですが、納税義務者は、5 万 1,244 人を想定しております。

それで、単価が 3,000 円ですので、調定額が 1 億 5,373 万 2,000 円を調定として見込んでおりますので、ここに徴収率 98.9%を掛けますと、1 億 5,204 万 1,000 円となります。

それから、所得割についてなのですが、どちらかという課税標準額も積算しているのですが、どうしても予算の積算上、税率は市民税の場合 6%なのですが、調定額だけで、最終的に計上しているというところもありますので、調定額が 50 億 7,796 万 1,000 円になりまして、徴収率 98.9%を掛けて、予算額の 50 億 2,200 となるわけなのですが、そこから定額減税が 4 億円ほど計上しているところがありますので、最終的に、46 億 2,110 万 4,000 円になります。

それから、法人の、まず均等割なのですが、納税義務者数は 2,916 社を想定しておりますので、調定額が 3 億 6,231 万 8,000 円を予定しております。

それで、徴収率が 99.6%を想定しておりますので、予算額としての 3 億 6,086 万 8,000 円を計上しております。

それから、法人税割なのですが、納税義務者数は 1,311 社を想定しております。

やはりここも税率は法人税額に対して 8.4%掛けるという計算にはなっているのです

が、予算の積算上は、やはり調定額だけという積算をしておりますので、予算調定額が9億3,377万円を想定しておりますので、徴収率99.6%を掛けて、9億3,003万5,000円を予算額として計上しております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 よろしいですか。

はい、梶原委員。

○梶原委員 あと、どうしますかね。

とりあえず、7款の入湯税まで同じような感じで聞いていく形になるのですけれども、続けていいのか。1回1回、聞いていくか。

とりあえずは。

○横尾委員長 まあ、いいですよ。

どうぞ、続けてください。

○梶原委員 では、続きまして、2項の固定資産税に入ります。

1目の土地、固定資産税のところの、まず、土地、家屋、償却、これ、もともと、税率が1.4%だと思うのですけれども、これ、今、ここに出ている数字というのは、もう税金の額でしょうから、この課税標準額として、土地と家屋と償却資産、元の額ですね、と、あと合計額、普通に、また、税率と調定見込み額、収納率についてお聞きしたいのと。

あと、2目、国有資産等所在市町村交付金、これについての算出の根拠というか、も教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 それでは、まず固定資産税の、まず土地についてなのですが、納税義務者数として、大体3万2,216名を想定しております、課税標準額なのですが、これは、1,550億9,166万2,000円という課税標準額に対して、税率1.4%を掛けますので、調定額とすると、21億6,967万3,000円という数字が出てきますので、ここに徴収率98.5%を掛けますので、予算額とすると、21億3,712万7,000円を計上しております。

家屋につきましては、納税義務者の数とすると、3万2,132名の納税義務者がおりまして、課税標準額が2,137億5,631万5,000円の課税の標準額に対して、税率1.4%を掛けますので、調定額が28億9,431万3,000円。ここに徴収率98.5%を掛けますので、予算額が28億5,089万8,000円を計上しております。

償却資産についてなのですが、対象者は1,824名を想定しております、課税標準額が1,123億5,531万2,000円、ここに税率1.4%を掛けますので、調定額が15億7,297万4,000円になります。ここに、やはり98.5%の徴収率を掛けますので、予算額とすると、15億4,937万9,000円を計上しております。

続きまして、その次の市町村交付金なのですが、これは、基本的に交付金というのが、鹿沼市内に、例えば、国あるいは県などの地方公共団体が所有する固定資産については、基本的に課税ができません、非課税として課税ができませんので、そのかわりに、地方税で定める固定資産税のかわりとして、各それぞれ国、県から交付されるというものになります。

それで、算出方法についてなのですが、同じく、固定資産税と同様な計算で、一応税

額の計算はされるのですが、あくまでもその台帳価格に対して、固定資産税と同額の1.4%が一応交付されるという仕組みになります。

それで、ちなみに、対象になってくるところが栃木県と、それから関東森林管理局、それと関東財務局、この3つの団体から合計で、今年度で言うと、1,231万5,000円が交付されるという形になっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。説明が終わりました。

よろしいでしょうか。

○梶原委員 はい。では、また、次に。

○横尾委員長 ほかにございますか。

(「いいよ、次行って、続けて」と言う者あり)

○横尾委員長 続けて。

(「そうするときれいになって」と言う者あり)

○梶原委員 それは、第1項目とすれば、あと4つあるのですけれども。

○横尾委員長 それでは、続けて質疑を受けます。梶原委員。

○梶原委員 続きまして、3項の軽自動車税ですけれども、説明欄の軽自動車税について、これも、それぞれですね、50cc以下、90cc以下、125cc以下、ミニカー、軽二輪車、軽三輪車、軽四輪乗用車等々ありますので、その金額と台数を、それで、合計金額は掛け算すればいいと思いますので、金額と台数を教えてください。

あと、この軽自動車税環境性能割についての根拠を示してください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

それでは、まず、それぞれの項目ごとの台数と、それから調定見込み額を申し上げます。

まず、50ccについては、2,965台を見込んでおりまして、税率については、1台2,000円という形になりますので、調定見込み額として593万円。

○梶原委員 合計額はなくです。

○鈴木税務課長 合計額はいいですか。

台数と金額単価だけ。

わかりました。はい。

それから、次、90cc以下につきましては、台数が412台で、金額がやはり同様に2,000円です。

それから、125cc以下につきましては、台数は731台で、税率については2,400円になります。

続けて、ミニカーなのですが、ミニカーは台数は88台、税率については3,700円。

それから、軽自動二輪につきましては、台数が1,635台で、金額は3,600円。

それと、数は少ないのですが、ボートとか、ボートトレーラーというものもありまして、これにつきましては、台数が68台で、金額は3,600円になります。

続きまして、今度は軽四輪のほうになる、紹介なのですが、まず自家用の乗用の軽四輪につきましては、台数は、合計で2万3,148台を想定しております。

この四輪に関しましては、標準の税率が、例えば1万800円あるのですが、平成27年以前の古い車については、税額として7,200円。

それと、登録になってから13年以上かかると、古くなった車に関しては、税金が重たくなるという形になりますので、1万2,900円。

これが、税額になっております。

それから、次の軽四輪の乗用の営業ですね、自家用ではない部分についてなのですが、これは台数がほぼほぼなけまして、標準税率の車が1台、それと、13年以上たった重い税金のものが2台ずつになっております。

それで、標準の税率は6,900円で、重い税金、重課の税金というのですけれども、これについては8,200円となっております。

続きまして、今度は軽四輪の貨物の自家用ですね、まず、標準の税率については3,209円。

それから、旧の、平成27年以前の車が1,397台。

登録して13年以上たっている車のものが、重課、これが4,480台を計上しております。

ちなみに、税率についてなのですが、標準税率は5,000円、旧の税率は4,000円、重課の税率は6,000円となっております。

最後になりますが、軽自動車の営業の貨物ですね、これにつきましては、標準の車が151台、旧税率が39台、重い税金のものが40台で、税率そのものは、標準税率が3,800円、旧税率が3,000円、重課については4,500円となっております。

このほかに細かな、小型のものがあつたりするので、それも報告したほうがよろしいでしょうか。

○梶原委員 お願いします。

○鈴木税務課長 はい。

それでは、まず農機具ですね、農業用のものに関してなのですが、2,811台で、これは税率について2,400円。

それで、小型特殊のその他のものと、扱いになっているものがありまして、これについては、台数は500台で、税率は5,900円。

そのほかの二輪の小型の自動車に関しましては、台数が2,293台、それと、税率については、6,000円。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、ありがとうございます。

続けてあれば。

○鈴木税務課長 環境性能割ですね。

○横尾委員長 え、まだあつたの。

はい、では、答弁。税務課長。

○鈴木税務課長 はい。

環境性能割につきましては、過去の実績の平均から見込みまして、これは金額だけで、どうしても見込んでいく状況になりますので、今年度に関しましては、どうしても、今年度の台数を参考にはしているのですが、今年度の動き等を見ながら、来年度につきましては、2,025万9,000円を、金額として見込んでいくという状況になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。

○梶原委員 ありがとうございます。

○横尾委員長 続けて、梶原委員があれば。

はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、ありがとうございます。

続きまして、市たばこ税にいきます。

市たばこ税について、売り渡し本数と税率、あと、調定見込み額と収納率、お願いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 はい、税務課長の鈴木です。

まず調定、本数ですね、これにつきましては、1億1,210万8,885本を一応想定しております。

税率につきましては、1本当たり6円、6.552円となっております。

たばこ税につきましては、100%販売業者から入ってきますので、この調定見込み額がイコール予算額となっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、はい、梶原委員。

○梶原委員 ありがとうございます。

続いて、鉱産税について、産出量、あと月算200万円超の部分と、月算200万円以下の部分、分けていただいて、あと調定見込み金額と収納率、お願いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 はい。産出量につきましては、年間を通して、一応予算の場合は、過去の実績をもとに積算しているところがあるので、議員がおっしゃったように、基準以下の場合だと税率が安くなったりするところはあるのですが、そこのところも総計した形で、一応積算をしております。

それで、採取量につきましては、最終の合計は、これは8万4,450トンを見込んでおりまして、それに対する調定額が、47万2,400円、これを見ているわけなのですが、やはりここも100%事業者のほうから入ってくる形になりますので、イコール予算額となるような状況でございます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 では、その月算200万円以下の場合、1%とか、200万円以下の場合は0.7%とかという、別々に分けて予算の、何だ、見込み額というか、算出はしてないということですか。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○鈴木税務課長 はい、そのとおり、そこまでのものまで見込んでない状況にありません。

○横尾委員長 はい。鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。

すみません。

先ほどの件に関しましては、議員のおっしゃるとおり、そこまでのものは見込んでないという状況になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 続きまして、6項の都市計画税ですけれども、こちらも、先ほど等の課税標準額で、土地、家屋、それで、償却資産を聞いて、税率と、では、収納率を教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。

それでは、都市計画税のほうについて、ご説明いたします。

まず、納税義務者のほうについては1万8,317名を想定しております。

税率については0.3%、鹿沼市の場合は0.3%を採用しておりますので、調定額が3億7,794万1,000円になりますので、ここに、徴収率は、固定資産税と同様の98.5%を掛けておりますので、予算額とすると3億7,227万1,000円となります。

続きまして、家屋についてなのですが、建物につきましては、納税義務者は1万8,661人で、税率については同様に0.3%になりますので、調定額で、4億743万3,000円、ここに98.5%の徴収率を掛けますので、予算額とすると、4億132万1,000円を計上している状況になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、では、続いて、7項の入湯税でいいのかな。

こちらの入湯税の中身なのですけれども、これ、前日光つつじの湯交流館と出会いの森福祉センター、スノーピーク鹿沼キャンプフィールド&スパだと思っておりますが、それ以上、以外にもあったら、ちょっとつけ加えてもらいたいのですけれども、それも日帰りの部分と宿泊の部分があると思うので、それについて、内容を詳細にお願いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 はい。税務課長の鈴木です。

それではお答えいたします。

鹿沼市内に入湯税の対象となる施設になるのが、現在ですと、ニューサンピア栃木さんと、あと、千渡のほうにパティオさんという日帰りのものがあるのですけれども、この、現在ではこの2カ所で、来年、6年度ですね、6年の4月以降にその水源地域にできるものに関してが、6年度からつけ加わるという形の施設になります。

それで、まず、ニューサンピアに関しましては、まず日帰りは50円の単価ですので、ここに7万2,142人を見込んでおりますので、調定、収入とすると、360万7,100円ほどを見込んでおります。

それで、同じくニューサンピアさんは宿泊のほうも行っておりますので、こちらにつきましては150円になります。人数のほうとすると、1万4,850人を見込んでおりますので、金額とすると、222万7,500円という形になります。

それからパティオさんは、やはり日帰り施設なので、50円に対して2,444人を見込んでおりますので、収入額とすると、12万2,200円となります。

それから、水源地域の振興施設に関しましては、やはり日帰りという形なので、50円を想定しております。

人数としましては、経済部のほうから情報をいただきまして、6万5,263人ほどとなるのではないかと見込んでおりますので、326万3,150円となりますので、合計すると、921万9,000円という形になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、わかりました。

では、これ、前日光つつじの湯交流館と出会いの森福祉センターは、税金というか、入湯税はないということ。

それで、このニューサンピアなのですけれども、これ、休業するというような話も聞いているのですけれども、それを見込んだ人数ということでよろしいでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。

まだ予算の積算段階というか、まだ、報道で確かに5月末での営業を終えるというようなお話はありましたけれども、まだこの段階では、ちょっとそこまで見込んでおりませんので、全て、1年間営業していただくというのを前提に積算した数字となっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 とりあえず、1回、では終わります。

○横尾委員長 はい。

(何事か言う者あり)

○横尾委員長 いや、これの議案はないのだよね。

○梶原委員 いや、ありますけれども。

(「やってしまったほうがいいよ」と言う者あり)

○横尾委員長 いや、一緒にやってしまってください。

○梶原委員 わかりました。

○横尾委員長 続けてやってください。

梶原委員。

(「きれいになった後で」と言う者あり)

○横尾委員長 うん。

はい、梶原委員。

(「非常にいっぱいあるの」と言う者あり)

○横尾委員長 いっぱい、さっきいっぱいあると言った。

○梶原委員 半分ぐらい終わったかと思うのですけれども。

(「半分やってしまったら」と言う者あり)

○横尾委員長 ちょっと待って、暫時休憩したほうがいいですか。

トイレのあれもね。

暫時休憩をします。

15分、11時15分で、よろしく申し上げます。

(午前11時10分)

○横尾委員長 休憩に引き続き再開いたします。

(午前11時14分)

○横尾委員長 続けて梶原委員、よろしく申し上げます。

○梶原委員 梶原です。引き続き申し上げます。

続きまして、14款使用料及び手数料について、1項1目総務使用料の中の説明欄の12ページになります。

市民文化センター使用料の内訳と、あと北犬飼駐車場使用料、これ、何ですかね、1台当たりの平均日額と台数がわかればお聞きします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

まず、市民文化センターの使用料につきましては、教育委員会所管となりますので、教育委員会の常任委員会のほうで協議をお願いしたいと思います。

○梶原委員 間違えました。すみません。市民情報センターでした。申し訳ないです。

○横尾委員長 はい、半田財政課長。

○半田財政課長 はい。申し訳ございません。市民情報センターにつきましても、教育委員会所管となっております。

よろしくお願いたします。

○横尾委員長 そういうことです。

はい。佐藤生活課長。

○佐藤生活課長 生活課長の佐藤です。

すみません。

生活課長の佐藤です。

北犬飼駐車場使用料についてなのですが、申し訳ありません。

今回の算出につきましては、年間の合計金額の、過去の金額に基づき算出しております。

それで、手元にちょっと平均の使用料とか、台数についての資料がないので、そちらは後ほどということをお願いしたいと思います。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 はい。そうしたら、今度は、2項の手数料のうち、総務手数料の中のこの不動産納税証明手数料。

(「何ページ」と言う者あり)

(「14ページ」と言う者あり)

(「14ページ」と言う者あり)

○横尾委員長 はい、進めてください。

○梶原委員 ここの税務証明書300円と、税務証明書コンビニ交付、あと、住宅用家屋証明書、これ、いくらで何件。

あと閲覧がいくらで何件。

あと督促手数料も多分変わると思うのですけれども、これも何件。

あと、諸証明手数料については、それぞれの詳細について、お聞きします。

あと、そうだ。

その中の2項5目消防手数料、こちらは、消防証明手数料、危険物事務手数料、タンク検査手数料、それぞれ教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。

それでは梶原委員の質疑にお答えいたします。

まず税務、不動産納税証明手数料関係なのですが、まず市民税関係では、単価が、基本的に300円になりますので、大体8,632枚が交付されるだろうと想定しております。

それから、次に、固定資産税の、まず評価証明に関してなのですが、発行枚数は4,861件を想定しているのですが、評価証明の場合は、所有者の物件の数によって単価が一律300円とは限らないので、過去の積算からほぼ400円近くはかかるだろうという形の積算しております。

それから、住宅用の家屋証明に関しましては、単価は、今年度は1,000円となっておりますので、発行枚数に関しては、401件を想定しております。

それから、写し関係ですね、固定資産の台帳の写しとか、地籍図の写し関係は、やはりこれも1人、固定資産に関しましては、何枚も持っている方がいらっしたので、単価が一律ではありませんので、単価のほうは平均332円として見込んでおります。

それで、名寄帳、大体件数に関しましては、3,589件を想定しております。

それから、次は、納税関係ですね。

納税関係の証明書の発行枚数に関しましては、単価は一律300円ですので、1,778枚を見込んでいる状況です。

私のほうからは以上になります。

○横尾委員長 はい。答弁は終わりました。梶原委員。

はい、小林納税課長。

○小林納税課長 はい。納税課長の小林です。よろしく申し上げます。

督促手数料についてお答えいたします。

督促手数料については、平成30年度から、年間の決算で、前年比、平均で算定しております。

225万円、1年間で、その前年比をもとに平均で出しております。

それで、令和6年4月から督促手数料が70円から100円に変更になる見込みでございます、なる予定です。

それなので、件数としましては、100円で割り返して、2万2,500件というふうに見えるかと思われま。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。説明は終わりました。梶原委員。

はい、曾篠予防課長。

○曾篠予防課長 はい、予防課長の曾篠です。よろしく申し上げます。

先ほど、タンクの検査手数料ということで、いくつか話がありましたが、これは全て

タンクの手数料の金額の合計であります。

以上で答弁を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 すみません。先にちょっと消防手数料だけ、再質問ですけれども、タンク検査手数料が、例えば、何件ぐらいあって、金額はいろいろ違うと思うのですけれども、では、その件数だけ聞いてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。曾篠予防課長。

○曾篠予防課長 はい。過去5年間ですね、平成30年度は723件、令和元年度は787件、令和2年度は729件、令和3年度は692件、令和4年度は691件。

なお、参考までなのですが、今年度2月29日までで619件となっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 すみません。この諸証明手数料というのも、今の説明の中でいただいたのですかね。

戸籍とか、住民票の写しとか、印鑑登録とか、マイナンバーの再発行とか、その辺のところもお伺いしたいです。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、青木市民課長。

○青木市民課長 はい、市民課長の青木です。

ただいまのご質問にお答えいたします。

戸籍住民基本台帳手数料についてでございますが、令和5年度実績見込み、3,143万3,000円をベースに、例年の手数料を勘案いたしまして、令和6年度、3,892万6,000円を見込んでおります。

こちらは、市民課で取り扱っている住民票、印鑑証明等の証明手数料で、来年度、4月からの額改定により、増額を見込んだものであります。

説明は以上となります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 はい、わかりました。

次は15款ですね。

15款の2項1目なので、17ページ・18ページになりまして、18ページの説明欄の中にデジタル田園都市国家構想交付金がありましたけれども、この事業の総額は、この、先ほど、補助率2分の1と聞いたので、単純にこれを2倍すればいいのかということと。

あと、その下のマイナンバー事業国庫補助金、これについても、総事業と補助率について教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、柿沼デジタル政策課長。

○柿沼デジタル政策課長 デジタル政策課長の柿沼です。よろしく申し上げます。

デジタル田園都市国家構想交付金につきましては、2分の1の補助額になりますので、事業総額は、ちょうどその倍の4,868万4,000円になります。

以上です。

○横尾委員長 はい、青木市民課長。

○青木市民課長 それではご質問にお答えします。

戸籍住民基本台帳費国庫補助金についてであります。

総額 2,723 万 2,000 円の内訳であります、人件費、会計年度任用職員 7 人分の人件費 1,880 万、1,800。

○梶原委員 総額と補助率がわかれば。

○青木市民課長 補助率。

はい、総額が 2,723 万 2,000 円となっております。

補助率は 10 分の 10 であります。

説明は以上となります。

○横尾委員長 はい。梶原委員。

○梶原委員 はい。次は、では、17 款、28 ページですね。

1 項 2 目財産貸付収入、この中の土地建物賃貸料でいいのかな。

これの内訳を教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。よろしくお願いいたします。

土地建物貸付収入の 2,046 万 9,000 円の内訳でよろしいでしょうか。

はい。こちらにつきましては、市有地で、市有地の土地ですとか、建物、そういったもの、83 件ですね、ございまして、そちらの収入ということと。

あとは、本庁舎の自動販売機につきましては、3 台となっております。

あと、本庁舎の正面入り口入ってすぐに、案内板の表示があるのですけれども、そちらの貸し付けが 1 件。

それともう 1 件、市民課前に、番号で呼ぶ、広告付きの窓口番号表示システムの貸し付け料 1 件ということになっておりまして、金額的には、土地建物貸付収入 83 件のほうが、1,591 万 3,425 円を見込んでおります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。梶原委員。

○梶原委員 ちょっと土地・建物については 83 件あるということで、あれですかね。

詳細、今ここで聞いても大変なので、資料でもらうこと、できますか。

要するに知りたいのは、それぞれの部分の貸し付け面積と賃貸料ですね、こちらを確認したいのですけれども、ちょっと 83 件読み上げられても、ちょっとつらいので、いかがでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。

83 件の内訳がございしますので、そちらは資料で提供ということにさせていただきます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 はい、ありがとうございます。

そうしたら、次の 1 項 3 目の命名権料収入について、これは 30 ページですね。

4 つあるということだったので、4 つ、それぞれの金額を教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。網行政経営課長。

○網行政経営課長 はい。行政経営課長の網です。

ネーミングライツ、命名権料ですね、4件ございまして、まず1件目が、自然の森総合公園サッカー場が50万円ということになっております。

続きまして、鹿沼運動公園ですね、そちらが52万円。

鹿沼総合体育館が120万円、市民文化センターが80万円ということになっておりまして、それで、それぞれ命名権をいただいている企業さん、一応説明させていただきますと、自然の森サッカー場がサンエコサーマル。

それで、鹿沼運動公園がヤオハンさんです。

鹿沼総合体育館がTKC、TKCいちごアリーナですね。

文化センターが、鹿沼ケーブルテレビということになっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 これ、命名権料がそれぞれ違うのですけれども、この違う、何か根拠というか、何かあるのでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。

こちらはですね、ネーミングライツ、そちら市の施設の名称に企業名、商品名を冠して、命名権を付与して、その企業さんから対価を得て、施設の維持管理という形になっておりますので、あくまで企業さん側からの提案という形になりますので、いくらで募集しますということをしておりませんので、金額はまちまちになると。

あくまで、それぞれの企業さんの考えに基づいての金額ということになっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 はい、ありがとうございます。

最後になりますけれども、17款の2項1目不動産売払収入についてですけれども、こちらの、先ほどの土地・建物貸し付け料と同じで、その詳細をお聞きしたいのですが、多かったら資料を求めたいのですが、ちょっと概要をお願いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。よろしくお願いたします。

まず不動産売払収入になりますが、大きく分けると2つのやり方というか、内容のものになっておりまして、まず1つ目が市有地の公売ということで、先ほど説明で5区画ですね、あるという話をさせていただきましたが、その5区画につきまして、場所を簡単に説明させていただきます。

まず1件目が、西鹿沼町ということで、上都賀庁舎と小藪川の間にある部分ですね。そちらのところで183平米と、約ですね、そちらが1件です。

もう1件が、石橋町ですね。国道293号のところにあるところ、沿いにあるところなのですが、そちらが約188平米と。

続きまして、2件、口栗野にありまして、もともとの栗野の清掃工場に入って行く途中に住宅地があるのですが、そちらに二区画ありまして、それぞれ300平米から350平米ということの面積になっております。

最後、もう1件が緑町1丁目ということで、ちょっと傾斜地になるのですが、住宅地

の中に約 370 平米の市有地を持っておりまして、その 5 件ということと。

もう 1 件が、法定外公共物といいまして、赤道、青地で、現在使用してない水路とか、道の形態がない部分ですね、そこの部分の払い下げ、どうしても家を建てるときとか、赤道が入っているとか、そういうところはあくまで普通財産に、今、行政財産なのですが、それを普通財産に移管しまして、行政経営課のほうで払い下げをしているという内容になっています。

こちらは、過去 3 年の実績に基づく予算の見込みになっております。

こちらは、毎年その何件くるというのも分からないものですから、3 件の平均ということで、今年度は 24 件分、3 年平均ですので、24 件分の金額で試算しております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 梶原委員。

○梶原委員 はい、では、歳入については以上です。

○横尾委員長 ほか、質問ありますか。大貫委員。

○大貫委員 では、歳入で、22 ページ、バス路線対策費県補助金なのですが、この金額の算出というのはどういうふうに出ているのかということが一つ。

それと、県補助金が、要はその、なんていうのです、バスの収益率が悪いと、その県補助金がカットされるとか、そういう話が聞いたことがありますけれども、今回そういうことなく、これは計算されているのかとか、あるいは、何かコロナで、当面、その利用者が減ってしまったので、県で特例措置を設けていたみたいなのも、一度聞いたことがありますけれども、その辺も含めて、この算出根拠をちょっと教えてもらえればと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、佐藤生活課長。

○佐藤生活課長 はい、生活課長の佐藤です。

大貫議員のバス路線対策費県補助金についてお答えします。

まず、6 年度の積算につきましては、過去の実績に基づき、積算しているというところになっております。

それで、今までの県補助金につきましては、収支率 20%、リーバスですと 20%、予約バスですと 10%以上のところが、県補助の対象ということになっておりました。

ただ、2 年度以降、コロナの影響ですね、5 年度までは、元年度に対象になっていた路線は、収支率が下がっていても、県補助の対象とするということで、5 年度については、収支率が悪くても対象になるというふうな特例措置が施されておりました。

それで、この収支率 20%というところが、なかなかきつい、難しい部分もありまして、これまでも県のほうに算定基礎のほうですね、基準のほうの見直しの要望をしてまいりまして、県のほうから、今年度算定方法を見直すということで回答をいただきました。

ただ具体的に、6 年度以降が、どのような算定方法で算出されるかというところが、まだ示されていない状況なので、今年度の予算につきましては、過去の実績に基づき算出したというふうなことになっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 大貫委員。

○大貫委員 はい。わかりました。

もう一ついいですか。

○横尾委員長 はい、大貫委員。

○大貫委員 続いて36ページなのですがすけれども、市債の財産管理債、公共施設除却事業債ということで、北犬飼と西大芦のコミセンの除却、取り壊しに市債を使うということですがすけれども、これ、それはどうしてなのかなと、単純に疑問に思ったのですがすけれども、ある程度長期に使うインフラだと、その借金して整備するというのもありなのだろうと思ったのですがすけれども、取り壊してしまうものに借金をするというのは、何か、国のほうの制度が有利なものがあるとか、そういう理由なのかどうなのか、ちょっとそこだけお聞きしたかった。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

市債の内容につきまして、私のほうからお答えさせていただきたいと思います。

まず、今回のコミュニティセンター2カ所の解体につきまして、今回の市債を活用することで、何か有利な形になるかという点で言いますと、その有利な点はございません。あくまでも資金手当としての市債という形になってございます。

こちらのほう、国のほうにおきましても、その役割を終えた建物の解体につきまして、市債措置を行うことで、円滑にその再編等を進めていくという形で、公共施設等総合管理計画と連携して、この市債の活用という形で設定されている市債になります。

あくまでも財源措置として、今回市債で借入れを行うという内容になってございます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 答弁が終わりました。はい、大貫委員。

○大貫委員 はい。何か、以前から、その公共施設の更新の時期がきて、これからその壊していかななくてはならない時代を迎えてきているということで、何か国のほうも、そういうものが進むような措置をしているというような話も、一度聞いたことがあったのですがすけれども、例えば、交付税措置がされるとか、そういうことはあるのですか。

○横尾委員長 はい、半田財政課長。

○半田財政課長 はい、財政課長の半田です。

こちらの公共施設の解体に伴う市債につきましては、交付税措置等はございません。

国のほうにおきましては、例えば、2つの公共施設を1つにまとめて、1つにするや、また、この解体の後に何かを整備する、そのための集約化等の技法を用いた場合には、交付税措置等がある場合がございますが、今回のケースにつきましては交付税措置等はございません。

以上で説明を終わります。

○大貫委員 わかりました。

○横尾委員長 はい。ほかにごございますか。はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、では、歳出についてお伺いします。

42ページ、総務費、1項1目一般管理費の中の説明欄一番上、市長給与費、これ、令和5年度より350万円ぐらい上がっていますけれども、その理由と。

あと、下から2番目の一般管理関係職員給与費の中の負担金がありますけれども、こ

こについて説明をお願いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、小泉人事課長。

○小泉人事課長 はい、人事課長の小泉です。よろしくお願いたします。

はい。まず、市長の給与費が上がっている点というところですかね。

はい。こちらにつきましては、はい、市長の給与費だけですと、差が、前年度と比較しまして、350万円ほど上がっております。

こちらが、今年度ですね、令和5年度につきましては、市長の基本給といたしますか、月給が5%カットをされておりました。

はい。それで、来年度につきましては、そのカットがなくなるということプラス、期末手当の支給率が、人事院勧告によりまして引き上げられる関係で、それぞれあわせまして350万円ほど、引き上げになっております。

あと、すみません。

はい。負担金の増額の理由なのですが、こちらこの後、議案のほうで説明をさせていただき予定ですが、来年度から、職員の退職手当につきましては、県の市町村総合事務組合のほうに負担金を出しまして、はい、職員の退職手当を支払ってもらうための負担金であります。

こちらが人件費で計上されるかわりに、こちらの負担金で計上するような形になっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、わかりました。

続けてやってよろしいでしょうか。

○横尾委員長 はい、どうぞ。

○梶原委員 50ページの一番下の説明欄の行政情報ネットワーク管理事業費、次のページ、52ページの中の電算システム借上料が、やっぱりこれも2,700万円ぐらい上がっているというのと。

あと、一番下の交付金、地方公共団体情報システム機構、これも前年度300万円ぐらいだったのが、690万円ぐらいになっているということで、こちらについて伺います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、柿沼デジタル政策課長。

○柿沼デジタル政策課長 デジタル政策課長の柿沼です。よろしくお願いたします。

では、梶原議員の質問にお答えします。

13節の電算システム借上料につきましては、こちらの内容が公会計システムや、パソコンの更新、また、システムの借り上げ等が該当になるのですがけれども、まずTKCの基幹系のシステムの借り上げで360万円ほど増額になっていること。

また、事務用のパソコンのリースの開始により、約2,000万円増になっていることと、ネットワーク機器リースの開始によりまして、約900万円増になっていること。

あと、オンラインシステムの利用料が今度新しくかかることによって、1,029万6,000円多くなっていることと、事務用のチャットGPTの利用料、こちらが約100万円かかっているようなことが原因となっております。

すみません。ちょっと負担金のほうのシステム機構のほうの300万円ほどの増のほう

は、内容を確認した上でお答えさせていただきたいと思います。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。

はい、梶原委員。

○梶原委員 はい、わかりました。

では、続けて聞きます。

(「どんどん」と言う者あり)

○梶原委員 はい。

56 ページ、2 款総務費、1 項 5 目ですかね、交通対策費、先ほどもあったバス路線対策費の中の 17 節ですかね、備品購入費、機械器具費 425 万 7,000 円ありますけれども、これは何なのか教えてください。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。はい、佐藤生活課長。

○佐藤生活課長 生活課長の佐藤です。

ただいまの梶原議員の質問にお答えします。

備品購入費、425 万 7,000 円につきましては、北犬飼駐車場の出入りのところの精算機になります。

これが、今後、紙幣、硬貨が新しくなることで、新しいものに対応したものに交換するというので、新しいものを入れるため、425 万 7,000 円を計上させていただいております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 わかりました。

そうしたら、続けていきます。

まず 58 ページ、57 ページ、58 ページの行政、8 目の財産管理費の中の 60 ページになりますけれども、13 節で土地の借上料とあります。

それで、これ、令和 5 年度は 7 万 6,000 円だったのが、1 割ぐらい上がっているというのでお聞きをします。

○横尾委員長 答弁を求めます。網行政経営課長。

○網行政経営課長 行政経営課長の網です。

そちらは、土地借上料ということになっているのですが、来年度から、前日光あわの山荘、現在経済部所管で、ザランタンという、グランピング施設になっているのですが、来年度から普通財産になりまして、行政経営課で管理するという予定になっておりますので、そちらの土地が民地で、そこから民地で市のほうが賃料を支払っている場所になります。

そういったところから、鹿沼市から土地の地主に対して賃料 80 万いくらですかね、前年度の差額分ですね、金額程度が、お支払いするという形になったので、今年度、行政経営課のほうで使用料が増えたということになります。

○梶原委員 経済部についていた予算が、行政経営課のほうに入ったという。

○網行政経営課長 あ、そうそうそう、そうです、ということになります。はい。

はい、以上で説明を終わります。

- 横尾委員長 よろしいですか。はい、梶原委員。
- 梶原委員 ザランタンの部分の民地なので、それを借り上げていますというところでは、75万円、年間、月6万円が土地の料金ということでよろしいでしょうか。
- 横尾委員長 答弁を求めます。網行政経営課長。
- 網行政経営課長 はい、行政経営課長の網です。
こちらですね、合計で74万9,972円という賃料になっております。
以上で説明を終わります。
すみません、年間賃料です。
- 横尾委員長 はい、梶原委員。
- 梶原委員 はい、わかりました。
では、その下の庁舎等維持管理費の中の12節の中に、警備、あります。
これもまた650万円ぐらい、警備費が上がっているということで、理由をお聞きします。
- 横尾委員長 はい、答弁を求めます。はい、網行政経営課長。
- 網行政経営課長 行政経営課長の網です。
警備料のほうの増額理由なのですが、警備につきましては、常駐警備という人的対応で、3年間の長期継続になっております。
こちらの継続が、令和6年度の6月、ちょっとお待ちくださいね。
7月か、4カ月分が現契約になっております。
それで、8月から、新たに入札をして、新しい業者の方と契約するのですが、現状ではその金額が、予定価格、見積りを徴取しているものですから、8カ月分ですね、8カ月分が見積り書の金額となって。
簡単に言うと4カ月分が、現在決まった契約額で、8カ月分についてが、見積り書の金額、それで入札を執行して、90%とか、85%とか、わからないのですが、請負率、それによって金額が変わるのかなということで想定しております。
現時点では見積り書の要求になっているので、ちょっと増額になったということです。
以上で説明を終わります。
- 横尾委員長 はい、梶原委員。
- 梶原委員 続きます。
- 横尾委員長 ちょっと待ってください。
- はい、柿沼デジタル政策課長。
- 柿沼デジタル政策課長 デジタル政策課長の柿沼です。
梶原議員の先ほどの地方公共団体情報システム機構の387万6,000円の増について説明をさせていただきます。
中間サーバーという、マイナンバーで、情報連携、ほかの団体、市町村とか、ほかの団体とやりとりをする中間サーバーというサーバーがあるのですが、そのシステムが、次期の更新を迎えることになりまして、その負担金としまして、地方公共団体システム機構から提示された金額が、この金額になります。
それで、増額になっています。
説明は以上です。

- 横尾委員長 はい、梶原委員。
- 梶原委員 はい、わかりました。
続きまして、70 ページ、2 款総務費の 1 項 13 目ですね。
説明欄の最初の「○」ですね、市民文化センター施設整備事業費というのは、これも、
では、ここではないですかね。
では聞けないということで。
そうしたら、102 ページ、3 款民生費、1 項 6 目になるのですかね。
説明欄の 2 つ目の「○」で、女性相談支援事業費となっていますけれども、ここは聞
けますかね。
聞けない。
- 横尾委員長 答弁を求めます。はい、半田財政課長。
- 半田財政課長 財政課長の半田です。
女性相談支援事業費につきましては、教育委員会の、こども未来部のこども・家庭サ
ポートセンターの所管になります。
よろしく願いいたします。
- 横尾委員長 梶原委員。
- 梶原委員 聞きたかったのは、このドメスティックバイオレンス対策事業補助金が、前
回、前の 100 ページの中の、男女共同参画推進事業費の中で出していたと思うのですけ
れども、これが、事業補助金がこっちに移ったということで、お聞きをしたのですけれ
ども、では、中身は聞けないということで、わかりました。
そうしたら 130 ページ、4 款衛生費、1 項 7 目墓地埋葬費の中の 130 ページの 14 節工
事請負費の中の施設修繕工事費なのですが、前年、令和 5 年だと、850 万円で何か直し
た後で、また、今年、1,100 万円で何か修繕するという事なので、詳細を教えてください。
- 横尾委員長 答弁を求めます。はい、佐藤生活課長。
- 佐藤生活課長 はい、生活課長の佐藤です。
見笹霊園費の工事請負費について説明いたします。
今回 715 万円を計上しているの、あ、失礼しました。
すみません。
斎場費の 1,100 万円の修繕費について説明いたします。
こちらにつきましては、斎場に火葬炉 4 炉ございます。
こちらを、施設の長寿命化も含めて、計画的に修繕を行っているものであります。
一度に全ての炉を修繕してしまいますと、火葬業務に支障を来すため、計画的に 1 炉
ずつ分けて修繕しているために、毎年計上となっているものになります。
以上で説明を終わります。
- 横尾委員長 はい、梶原委員。
- 梶原委員 では、4 つあるうちの、今年は 1 つ直すという認識でよろしいですか。
はい、わかりました。
そうしたら、最後になります。190 ページ。
- 横尾委員長 はい。

- 梶原委員 9款消防費、1項2目非常備消防費、消防団員報酬なのですけれども、これ、令和5年度も770人で、5,264万7,000円だったのですけれども、令和6年度200万円減額になっている理由を教えてください。
- 横尾委員長 はい、答弁を求めます。大島地域消防課長。
- 大島地域消防課長 はい。地域消防課長の大島です。
梶原委員の質疑にお答えいたします。
200万円の減額につきましては、年額報酬と出動報酬というのを合わせたものが5,064万7,000円になっていますが、昨年度からですと、出動報酬というのが、出動した、災害によって出動の報酬を支払っております。
それが、前年度の場合は、災害が少なかったものですから、それに伴いまして、200万円減額となっているものでございます。
以上で説明を終わります。
- 横尾委員長 はい、説明は終わりました。
ほかに質疑はございますか。
（「終わり？」と言う者あり）
（「まだやるの」と言う者あり）
- 横尾委員長 いや。
- 藤田副委員長 いや、手を挙げてください。
- 横尾委員長 どっちが手、挙げるんだよ。はい。
（「まだやるの」と言う者あり）
- 横尾委員長 またやりますよ、まだこれから。
はい、何だ、大貫委員。
- 大貫委員 はい、では、出納事務費、46ページなのですけれども、足利銀行の、先ほど説明があって、公金の取り扱い手数料が徴収されるということで、どのぐらいの費用がどのぐらいかかってくるのか、その辺のところをお聞きしたいのと。
支払わなくても済むような方法が、何か手段としてとれるのかどうか。はい。その2つ、何かうまい方法があるのかどうか。はい、お願いします。
- 横尾委員長 答弁を求めます。はい、渡辺会計管理者。
- 渡辺会計管理者 会計管理者の渡辺です。
大貫委員の質疑にお答えします。
まず最初に足利銀行の公金取り扱い手数料の内容的なものなのですけれども、会計課のほうの出納事務費で計上しております予算は、口座振り込み手数料、これは全庁的なもの。
それから、窓口収納手数料は、税外の、市税以外のものということで、ちょっと各課担当ごとにちょっと分類はしてしまっているのですけれども、会計課の予算については、その部分になります。
まず、窓口収納手数料につきましては、すみません。
まず前提として、6年度は10月からの半年分になります。
それで、出納事務費における窓口収納手数料の金額は、単価が110円、税込みですね。これの9,235件分ということで、101万6,000円。

それから、口座振り込み手数料、こちらは税込み単価が1件68.2円の3万6,344件なので、予算が247万9,000円。

こちらのほうを出納事務費のほうで計上しております。

その他市税関係の窓口収納手数料等は、納税課のほうの予算で挙げているわけなのですが、それらも全体的に合わせまして、先ほどの、この手数料が免除にならない、払わなくて済むようなことがならないかということに関しましては、一応これは指定金融機関と、その契約をしている各市町村、市区町村との問題になってくるわけなのですが、今回栃木県の場合には、栃木県、それから県内25市町のうち、高根沢町を除く24市町が、全て足利銀行だったということで、ちょうど足利銀行からの申込みも同じ時期だったので、県内統一して、交渉に当たりましょうという流れになりました。

その際に、一応金融機関にそれ相応の手間、手数料、手間がかかっているということなので、地方公共団体も、しかるべき、適正な負担をしていくという方向性の話になりました。

そのほか、令和4年3月に総務省から通知が出ておりまして、やはりそこにも、各地方公共団体において公金収納等のデジタル化を推進していくとあわせて、適正な経費負担となるような見直しをするようにという技術的な助言があったということが背景にありましたので、足銀と金額調整、その交渉の中で適正かどうかというものを、県内、栃木県及び県内市町村と歩調を合わせて、今回足銀からの要望に対して正式な回答を1月末にしたという流れになっておりまして、今後足利銀行と話が進めば、そちらのほうで、適正価格での契約というような流れになってくると思われまので、全く払わないという市町は全国のところでもまだあるかとは思いますが、一応国からの通知に基づいて適正な価格への見直しということで進めさせていただいたということになります。

以上で説明を終わります。

○大貫委員 はい。

○横尾委員長 いいですか。

昼食のため、暫時休憩をします。

再開は午後1時からです。

よろしく申し上げます。

(0時05分)

○横尾委員長 休憩前に引き続きまして、再開をしたいと思えます。

(午後 1時00分)

○横尾委員長 その前にちょっと申し上げますけれども、時間もたっていますので、答弁というか、質問が出た場合は、挙手をして、自分で名前を言って、こちらから探さなくても、言っていただければ大丈夫なので、そういう形でお願いをしたいと思えます。

あと質問の人も、要点だけ、何ページの何というだけで、それで質問をしていただければ、時間も縮小されますし、今の調子だと随分時間がかかりそうな感じもしていますので、要領よくお願いをできればと思えます。

はい。それでは、続いて質問をよろしく申し上げます。

はい。名前言ってやってください。

○佐藤生活課長 はい、生活課長の佐藤です。

すみません。午前中梶原委員からいただきました、北犬飼駐車場の使用料関係のところのお答えをさせていただきたいと思います。

予算書の52ページになります。

まず、北犬飼駐車場の使用料につきましては、時間とか、1日ということでの単価が決められています。

あそこから高速バスが発着するという、通過するというので、高速バスを利用されている方につきましては、1日24時間で300円となっております。

また、高速バスを利用しない方については、1時間200円の使用料をいただいております。

利用台数と、平均の使用料についてなのですが、まず、令和5年度2月末の数字になるのですが、利用台数のほうが4,836台となっております。

こちらを1台当たりの平均の利用料としますと、993円になります。

北犬飼コミセンにつきましては、どうしても高速バスの関係で、コロナ禍の影響でかなり利用状況が悪化しておりました。

ただ、やはり、そのコロナの状況と同じように利用のほうも改善してきているということで、来年度の予算については、台数や時間という見込みではなくて、これまでの合計金額の動きをかんがみまして、来年度予算のほうを算出しております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、ありがとうございました。

はい、では、橋本委員。

○橋本委員 はい、橋本勝浩です。よろしくお願いいいたします。

手短に4点ほど、ちょっと質疑をさせていただきたいと思います。

ページ数ということでしたので、まず12ページ、一番上の項目なのですが、水源地振興拠点施設の利用率163万円、これについては、もう既に相手、使用する相手というのが決まっています、月10万円程度ですかね、大体10万円ちょっとですけれども、その算出の根拠というか、使用料の根拠的なものを教えていただければと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。

○大場地域課題対策課長 地域課題対策課長の大場です。

こちら水源地域振興拠点施設の利用率、施設につきましては、経済部観光交流課の所管になりますので、そちらということになります。

すみません、よろしくお願ひします。

○横尾委員長 はい、わかりました。

はい、次の質問、橋本委員。

○橋本委員 すみません。はい、すみませんでした。申し訳ないです。はい。

では、2点目は、56ページのバス路線の維持費で2億円のこれ運行事業者に対する補助だと思っておりますが、これは赤字額が出てきたのをそのまま全部補助するのか、この補助基準、2億円って結構な補助額だと思っておりますが、この辺について教えていただければと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○佐藤生活課長 はい、生活課長の佐藤です。

バス路線対策費の運行補助について、2億円についてお答えします。

この補助金については、運行経費から運行収入を差し引いた赤字分全額を市のほうで補助するというふうな形で補助金のほうを算出しております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 橋本委員。

○橋本委員 ありがとうございます。

そうすると、運行に得られる収入というのは、その業者さんに入ると思うのですが、そこも全て把握された上で、その差引き分を補填しているということによろしいのでしょうか。

○横尾委員長 答弁を願います。

○佐藤生活課長 はい。議員のおっしゃるとおり、全て毎月運行業者のほうから、経費と収入と報告をいただいて、それで算出をしております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、橋本委員。

○橋本委員 はい、ありがとうございました。

ちなみに2億円の補助なのですけれども、売り上げを聞いているということなので、売り上げだといくらぐらいになるのか、概要でいいです。どのぐらいの売り上げがあるのか、収入があるのか、参考までに教えていただければと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○佐藤生活課長 はい、まず、令和4年度になるのですけれども、リーバスにつきましては、運行収益のほうで2,357万1,000円。

それで、予約バスのほうで259万円となっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 橋本委員。

○橋本委員 はい、ありがとうございました。

収入とすると、大体1割ぐらいなのかなということ、それはまた、今後の議論というか、効率ということでの議論をさせていただきます。

では、3点目、78ページの選挙、知事選、もしくは市長選挙なのですが、ここの下の、一番下の丸の職員手当、こちらにつきましては開催、いつの超過勤務というか、いつの時間帯の表を出しているのかということ、それは、算定というのは超過勤務という形での算定単価になっているのか、その2つをお願いいたします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。

○湯澤選挙管理委員会事務局長 選挙管理委員会事務局長の湯澤です。

職員の手当につきましては、一律2,200円という単価が決められておまして、こちらで積算をしております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、橋本委員。

○橋本委員 はい。1時間2,200円ということだと思っておりますが、それは当日だけなのか、それとも、そのまでのその準備というの、これに入っているのか。その点がちょっと漏れたので、すみません、よろしく申し上げます。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。はい。

○湯澤選挙管理委員会事務局長 はい、選挙管理委員会事務局長の湯澤です。

ただいまのご質疑にお答えいたしますと、平日等々の勤務に関しましては、個別の単価で算出されますが、選挙の投票所の準備、または当日のお仕事、また開票につきましては、先ほどの単価が採用されることとなります。

以上で答弁を終わります。

○横尾委員長 はい、橋本委員。

○橋本委員 そうすると平日の夜も、もう選挙にかかると2,200円の単価になっている。

休日とかではなく、その選挙にかかわるのは2,200円の単価になっているということの考えでよろしいのでしょうか。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。

○湯澤選挙管理委員会事務局長 はい。すみません。

お話がちょっとうまくいけなかったのかもしれませんが、平日というのは、各個人が参加して、協力していただくというお仕事がありますのですけれども、そちらについては個人の単価になります。

それで、あくまでも、投開票事務の準備、または当日の業務につきまして、選挙管理委員会で積算した2,200円が採用されるということになります。

よろしいでしょうか。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 橋本委員。

○橋本委員 わかりました。時間短縮になると、この部分が浮いてくるのかなというふうな、思うのですが、わかりました。

では、最後になります。

100ページの下の方から「○」の2つ目なのですが、結婚新生活支援補助金1,380万円。これにつきまして、6年度は想定で何件ぐらい、また、どのような内容の補助金とこのですか、お金とか、物ってなると思うのですがすけれども、その内容についてお伺いできればと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

こちらの結婚対策費につきましては、こども未来部の所管となりますので、よろしくお願いたします。

○横尾委員長 よろしいですか。

○橋本委員 再婚がどうかという話もあったのですが、では、わかりました。

そちらということで、4件中2件、大変失礼しました。時間とらせまして、すみませんでした。

以上です。

○横尾委員長 よく勉強して、来年からちゃんとやってください。

はい。ほかに質問はございますか。大貫委員。

はい、どうぞ。手短に。

○大貫委員 はい、そうしましたら、まず50ページですね、50ページ、行政ネットワー

ク管理事業費で。

○藤田副委員長 ボタンを押してください。

○大貫委員 行政情報ネットワーク管理事業費で、先ほど説明があつて、オンライン申請を、今後取り入れるという話でしたけれども、まずはどんなものがオンライン申請になるのか。

また、どどんなふうの手続するのか、その内容を教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。どうぞ。

○柿沼デジタル政策課長 デジタル政策課長の柿沼です。

ただいまの大貫議員の質疑にお答えいたします。

オンライン申請につきましては、来年度になりましてから契約等をしていくのですけれども、想定しているものとしましては、諸証明の発行、例えば、住民票や納税証明で、税務関係の証明や、乳幼児健診や健康教室の予約、あと貸し館の予約、また、今、L o G o フォームというものを使ってやっているのですけれども、通報システム、「道路が壊れてるよ」とか、河川が、「公園の遊具が壊れてるよ」とか、そういったものを報告するもの、また、チャットボットといいまして、窓口の案内システム等を想定しております。

中身につきましては、できるものから順次という形にはなるのですけれども、今考えているシステムとしましてはL I N E を使ったシステムになります。

L I N E で一問一答をしながら答えていくと、例えば住民票が取得できるとか、健診が予約できるとか、一般の市民が、今まで窓口とか、電話でやっていた手続がL I N E を通じてできるようなシステムを想定して考えております。

よろしいでしょうか。

○大貫委員 私、全くそっちの世界、よく知らないのでお聞きしますが、例えば、住民票だと、そのL I N E で、そういうものを申請をすると、後でそれが郵送になるとか、そういうことですか。オンラインで、何かメールみたいにはば一っと届いて、それを印刷すればオーケーとか。最近。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○柿沼デジタル政策課長 はい。デジタル政策課長の柿沼です。

例えば、住民票ですと、「住民票が欲しいんです」と、L I N E でやりますと、「どんな住民票が欲しいですか？世帯全員ですか？個人ですか？本籍がいますか？」とか、そういったことを聞かれて、それを選びます。

それで、そうしましたら、本人確認、マイナンバーカードで本人確認をしまして、それで、本人確認ができましたら、今度郵送でお送りしますが、その郵送料も含めて、オンライン決済で、お金も払わずに自宅に書留で届くというようなシステムで考えております。

○大貫委員 はい。

○横尾委員長 いいですか。

○大貫委員 はい。

○横尾委員長 よろしいですか。はい。

○大貫委員 続けていいですか。

○横尾委員長 大貫委員。

○大貫委員 68 ページ、水源地域振興事業費、この中で、携帯電話の基地局を整備するというような話があったのですけれども、その詳細、ちょっと教えてもらっていいですか。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○大場地域課題対策課長 地域課題対策課長の大場です。

携帯基地局が、今、水資源機構が新たに管理事務所を立てているところ、あの辺まで電波の届く範囲になっておりまして、さらにダムができることによって、もうちょっと奥まで電波が届くようにしたいということで、県道沿いになるのですね、付け替え県道沿いになるのですが、さらに奥のほうもカバーできる位置に携帯の基地局を、こちらはドコモさんの基地局になります。

既存の電波がドコモさんだったので、ドコモの延長ということで、さらに奥の位置に1基、つけることによりまして、おおむねダムの湖面のところも含めて7割以上ぐらいが、電波がカバーできるようになるというような工事になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。大貫委員。

○大貫委員 はい、わかりました。

通常、何ていうか、民間事業者がそういうものって整備するのかなと思っていたのですけれども、これはどの程度、鹿沼市がそこに、その基地工事、アンテナを立てるのに、それ全額鹿沼市が持つということなのか、NTTと応分の、その負担を分かち合うみたいな仕組みなのか、その辺ちょっと。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○大場地域課題対策課長 はい、地域課題対策課長の大場です。

携帯の基地局、主には定住人口とかで、多いところに設置するというのが業者の考えでありまして、どうしても観光でお客さんが少し増えるとか、そういうところにつきましては、市のほうで全額を負担して、今回は特にそうなのですが、市のほうの負担で設置をするということになります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、わかりました。

○大貫委員 はい。はい。

○横尾委員長 大貫委員。

○大貫委員 わかりました。

それで、わかりました。

今度スノーピークができて、それをその、西北部を回遊するような、何ていうかね、観光ルートを開発したりとかということもあるのかなと思うのですけれども、そうすると、もし、こういうことが可能だと横根のほうって、携帯電話が通じないのですよね。

a u が通じたりするのもかもしれないのだけれども、例えば、そういうものも、今後、何か考えていくことというのはあるのか。

ちょっと関連でお聞きするようになってしまうのですけれども、いいですか。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○大貫委員 観光ね。はい。経済部。

○横尾委員長 はい、部長、はい、どうぞ。

○秋澤総合政策部長 はい。では、お答えしたいと思うのですが、今回、我々総合政策部のほうの所管で水源地域の振興というのがありましたので、今回についてはダム湖周辺のこの携帯基地局ということで、予算計上させていただきました。

その横根高原については、これは経済部、所管している経済部のほうとも、こういったお話があったということをお伝えしまして、今後検討させていただきたいと思います。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、大貫委員。

○大貫委員 はい、丁寧な答弁ありがとうございます。

○横尾委員長 よろしいですか。

はい、橋本委員。

○橋本委員 すみません。橋本です。

先ほどちょっと、12 ページの水源地域対策のがということなのですが、使用料ですね。

これは財政のほうの話になってくると思うのですが、基本的に使用料はその経済部のほうで算定したのをそのまま受け入れているのか。

要するに総務、政策として、そこのところに意見を言えないというか、やっぱりいくらぐらい使用料とったほうがいいのかという、その政策的なことは絡むことができないのか、その点で確認してください。

すみません。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

こちら使用料、手数料の算定に当たりましては、市のほうで、全体的な基準を設けております。

そこにかかる諸経費を賄えるようにということを根拠に、使用料、手数料のほうを設定するという考え方になっておりますので、基本的に全ての施設の中で考え方は同じとなります。

今回の水源地域振興拠点の施設の使用料につきましても同様に、全庁的に検討した中で、さらに出合いの森の運動公園のキャンプ場などの費用比較、また、他市、民間、そういったキャンプ場の使用料等との比較なども行いまして、料金設定を行ったものになります。

ですので、あくまでも経済部だけということではなくて、全体的なルールの中で決定しているような内容になってございます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 よろしいですか。はい、橋本委員。

○橋本委員 はい、ありがとうございました。

私の質問もちょっと悪かったと思うのですが、その算定の基準というのが、入れ込み客数だとか、まだない中で、ある程度財政上、上がったほうがいいのかと思ってはいるのですけれども、そういうところを聞こうと思っていました。

それで、今後も、それについてはまたいろいろ教えていただいたり、質疑させていただければと思うのですが、今回はここで大丈夫です。

○横尾委員長 ほか、ないですか。

はい、大貫委員。

○大貫委員 はい。すみません。66 ページなのですけれども、協働のまちづくり推進事業費で、委託料、管理運営ということで、1,022 万 5,000 円が計上されているのですけれども、これ、この算出根拠というか、そこを聞きたいなと思うのですけれども、多分指定管理料、指定管理になるのかなと思うのですけれども、ちょっと教えてもらっていいですか。

○横尾委員長 答弁を求めます。どうぞ。

○松島協働のまちづくり課長 はい。協働のまちづくり課、課長、松島と申します。よろしくお願いたします。

ただいまのご質問にお答えいたします。

こちらは、まちなか交流プラザ、下横町にありますプラザの中で、市民活動の運営委託の委託料となっております。

こちらにつきましては、プロポーザルによりまして、施設の管理と、その運営を提案を受け、それを採択して委託をしている内容となっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、ありがとうございました。

大貫委員。

○大貫委員 はい、プロポーザルでということは向こうがこういう金額で受けますよということを書いてきているということなのかなとは思いますが、はい。

だんだんですね、今働く人のその所得を上げなくてはいけない、賃金上げなくてはいけないというふうな流れになってきている中で、どうしてもその、こういう委託団体の賃金が、あまり高くないというか、低いままで推移しかねない傾向ってないのかなと思って、一定程度そういうことは、行政としても把握をして、もし、何ていうかね、少し、これはちょっとというような事案が見受けられたらば、少し改善をすとか、そういうことも今後必要になってくるのかなと思っているのですが、いかがでしょうか。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。はい、どうぞ。

○松島協働のまちづくり課長 はい、協働のまちづくり課長の松島です。

なかなか人件費が上がったりとか、そういった情勢の中で、不足が生じるのではないかという、はい、危惧はごもっともかと思っております。はい。

それで、実際には、受託者につきましても、自主財源の確保といいますか、収入を得られるような事業、自主事業を検討したり、5 年間の契約となっておりますが、次回のプロポーザルの際には、そういった実際の事業の具体的な内容、コース、必要な人数ですね、そういったものを精査した上で、提案を受けていきたいと考えております。

はい、以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。よろしいですか。

はい、谷中委員。

○谷中委員 はい、よろしくお願いたします。

多分 54 ページだと思うのですけれども、営業戦略のほうで、営業戦略のほうで、LINE、よく市長が宣伝をしていた LINE というのがあると思うのですけれども、何回も、そこは結構若い人も見えて、いろんな市のイベントとかが入っていて、すごい

いという話を聞くのです。

それで、私もそう思っているところなのですが、やっぱり全部のものが、なかなか全部を吸い上げるというのは難しいと思うのですが、やはり一番目にしやすい、見やすいというのをちょっと聞いているものですから、ここをもっと充実してほしいというのですけれども、この予算というのは、LINEでもね、私たちがやっている無料のやつと、市のレベルだとお金がかかっているのかというところもちょっとお聞きしたいので、その辺ちょっとお答えをお願いしたいと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○柏熊いちご市営業戦略課長 営業戦略課長の柏熊です。よろしくお願いいたします。

ご質疑にお答えいたします。

LINEにつきましては、市のLINEだからといって高いとか、そういうわけではございませんで、通常のLINEの料金でできるものでございます。

それで、先日幹事課長会議とか、あと市内のほうで、イベントがある場合は、どんな小さなイベントでもいいので、どんどん上げてほしいというふうにお願いをしたところでございますので、今後改善されていくのかなということもご報告させていただきます。

以上でございます。

○谷中委員 無料だということなら、本当にやっていただきたいし、多分今までって、1個のところに集めてやっていたのかもしれないのですけれども、それだと、どうしてもね、時間的にやっぱり無理なものもあるので、もう責任を持って、その課とかがやると、もっとたくさんの、一番目にしているかなと思うのですよね。

なので、そこは力を入れていただきたいということで、予算がかかっていないのではよかったです。

それと、もう1個、市のPRグッズというところで、これも54ページのどこかにはなるのですが、やはりいろんなイベントのときに、例えば、この間の大樹の東武日光、東武線のときに、いろいろPRグッズを配ったとかというのもお聞きしたりしていて、そういう方に対してはすごくPRしているなと思うのです。

でも、一時、小学生にいちごのクリアファイルを分けたときがあるのですけれども、もうあれからだ、随分その鹿沼市民に対してのPRというのは、確かにPRしないでいいというわけではないけれども、「やっぱりみんなで宣伝していくんだぞ」ということであれば、やはりそういう小学生とかにも分けるのは必要だと思いますし、いろんなイベントのときに、会場に、例えば、いちごアリーナにも、そういうお客さんが来たら、そこでちょっと、試食品でも配っていただくとか、何か、やっぱり鹿沼市をPRするというのが、まだまだちょっと、グッズ等にしても、何か足りないと思うのですが、今年度の予算とかというのはいかがになっていますか。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○柏熊いちご市営業戦略課長 いちご市営業戦略課長の柏熊です。よろしくお願いいたします。

ノベルティグッズにつきましては、今年の話は、まずボールペンを発注をして、間もなくできるところでございます。

それからクリアファイルなんかもつくってございまして、こちらにつきましては、市内

でイベントがあった際に、出店した際には、来た方にはお配りをして、市内のやっぱり郷土愛というのですかね、そういったものの醸成にもつながるものだと思いますので、その辺のところは積極的に、今後は取り組んでいきたいと思っております。

以上でございます。

○谷中委員 はい、大体予算。

○横尾委員長 谷中委員。

○谷中委員 いいですか。

○横尾委員長 はい。

○谷中委員 予算的にはどのぐらいなのですかね。

例えば、今年度はいくらで、来年はいくら、6年度はいくらという。

○横尾委員長 はい。

○柏熊いちご市営業戦略課長 営業戦略課、柏熊です。

大変失礼しました。

今年は消耗品のところに入ってくるのですが、40万円を消耗品として計上しております。そのうちの、予定では500円のを600個ぐらいで考えておりますので、30万円ぐらいとかですかね、その辺のところを予定としては考えているところでございます。

以上です。

○横尾委員長 はい、谷中委員。

○谷中委員 はい。令和6年度は、やっぱり同じぐらいですか。

○柏熊いちご市営業戦略課長 あ、令和6年。

○谷中委員 度が今ですか。

○横尾委員長 どうぞ。

○柏熊いちご市営業戦略課長 営業戦略課、柏熊です。

令和6年度が、消耗品が40万円ありまして、そのうちで、ノベルティの分を作成しようというふうに考えております。

○横尾委員長 はい、谷中委員。

○谷中委員 はい。今ね、予算を組み、もう決まりというところで承認をするわけなのですけれども、40万円で足りませんか。

もうそこからですよ。

やっぱりいろんな方が来てくださって、それは物をあげたらね、PRにできるかということではないですけれども、やはりもらった物で、ずっとそれをつけておいたり、何かということだと思うし、市長もいろんなところで「いちご市」と言って、本当に皆さんに「いちご市」は広がってきたと思いますが、やはりみんなで自信を持って「いちご市だ」って言えないところには、やはり鹿沼市内でも本当に力を入れているのかどうか。

市長の挨拶では、必ず「いちご市長」とかって言っていますけれども、そういう何か物でとか、みんなPRしていくというのがどうしても足りないと思うのですよ。

それで、今聞いて40万円って、これが鹿沼市のPRを考えた予算ですかというふうにちょっと。

まあ、いろんな部でね、例えば、経済部でいろんな何か売り出しとか、そういうときには、また別のPRの部分があるよって言うかもしれないのですけれども、やはり市の、

やっぱり営業戦略課ですから、やはり鹿沼市をアピールするとすれば、もっとやっぱり予算というのは大胆にとっていかないと、やっぱり都市間競争ではないですけども、せっかくいちごだって、すごく大田市場ですごいということも先日市長からもお伺いしましたし、私たちも昨年、そうですね、女性3人でいちごの、足立区で、足立区ではない、ごめんなさい。都庁で売りにいったときにお手伝いしましたけれども、すごい勢いで売れるわけですよ。そういうね、やはり、利用して一生懸命やっても、何かやっぱりほかの人にPRするという、その場に来た人にはPRになっていると思うのですけれども、やっぱり多くの方にといいうふうになると、本当に少ないと思うのですが、その辺はどのようにお考えになっているのでしょうか。

○横尾委員長 はい、答弁、どうぞ。はい。

○柏熊いちご市営業戦略課長 営業戦略課長の柏熊です。よろしくお願いいたします。

ご質問にお答えいたします。

ノベルティの予算としましては、先ほど申し上げた金額ではあるのですが、ただ、広告宣伝費としまして、103万6,000円、議員さんの思うような数字ではないかもしれないのですが、それを確保してありまして、いろいろプロモーションのほうに使っていきたいというふうには思っております。

また、今回ですね、いちごのガイドブック、いちごに特定したパンフレットがあるのですが、それを新しく更新してつくろうということで予定をしております、それ100万円分の予算を確保しておりますので、その辺のところもうまく使って、プロモーションのほうにつなげられればというふうを考えております。

以上でございます。

○横尾委員長 はい、谷中委員。

○谷中委員 はい。やはりいろんな市に行って、一番先にそういう市を売り込んでいるところに行くと、もう予算がね、全然桁違いですよ、はっきり言って。

だから、やはり、一番やっぱりアピールして、市に来ていただく、人口減少でいろんなものに人がいなくなっているということを言っているわけですから、やはりそういうところは交流人口を増やす。

それで、まして今度スノーピークとかいろいろあるのですから、やはり全国的にも鹿沼市を知っていただくという意味でも、初めのこの予算はこれで仕方ない、いろんなものを足せば、いろいろできるということも今お伺いしましたので、いいのですけれども、やはりそこはもっとやはり補正でも組んでどんとやるときはやるという感じでやっていたかかないと、営業戦略課として、課もつくって、結構な年月になるわけですから、そのような感じでやっていただければと思っています。

この6年度はしょうがないという形ですけども、ぜひそこは期待をしたいと思えます。

もう1個いいですか。

○横尾委員長 はい。

○谷中委員 はい、その下の54ページなのでありますが、交通指導員さん、この金額というのは、今、少しずつ増えているのかどうかということもあるので、今何人分なのか、を予算としてやっているのかということと。

やはり子供たちの今交通事情というのは、本当に歩道が全部あるわけではないので、危険箇所がたくさんあるわけですね。

地域では、本当にボランティアで、この交通指導員にならなくてもやっている方もたくさんいらっしゃいます。

その交通指導員というのは、どうして増やせないのかということと、そういうふうにはボランティアの方というのは、あくまでボランティアで仕方ないのかという、その辺だけちょっとお聞かせください。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○佐藤生活課長 生活課長の佐藤です。

ただいまの交通指導員に関するご質問ですが、まず報酬につきましては、43名分、お一人月額3万7,000円で11カ月、夏休みがほとんど活動がないということで、11カ月分で43名分ということで、はい、計上させていただいております。

それで、交通指導員、子供たちの登校時の安全の確保ということで、交通指導員さんのほかに、教育委員会のほうからの管轄になってしまうのですが、交通ボランティアさんにもかなりご協力をいただいております。

ただ、議員のおっしゃるとおり、今そのなり手が少なくなっているというところで、非常に問題としては、認識しているところです。

ですので、今後、私どもと、あと教育委員会のほうとも協議を進めて、こういった形で、こういった人材のほうを確保していくのか。

こういった形でご協力をいただくのかということと、整理していきたいなというふうに思っているところです。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、谷中委員。

○谷中委員 はい、ありがとうございます。

本当にね、仕事している方だと無理だし、約1時間ぐらいかな、立っていて、本当に雨の日も雪の日も暑い日もということで、すごい大変なお仕事だなと思うのですね。

それで、やはり「なかなか地域でも探せない」って言って、断念するところもあるのですけれども、今の交通事情だと、やはりそうは言っても、やはりたくさんいてほしいというのが、やっぱり地域のお願いだと思いますし、あと、着ている、着るものかな、服装も結構冬は暖かいものというか、結構着て、でも、「何か予算の関係で少し、何か分厚いのから、ちょっと薄めのジャンパーになっちゃった」って聞いたのですけれども、その辺ってどうなのでしょう。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○佐藤生活課長 交通指導員さんの、すみません。

生活課長の佐藤です。

交通指導員さんの制服につきましては、以前は警察官のような感じのもので、夏服・冬服、それこそブラウスから全てで、防寒服、そして、かっぱから長靴までということで、そうしますとお一人当たり10万円ぐらいかかっています。

それで、なかなかそちらでそろえるのが難しいというところで、防寒服もジャンパー的なもの、今までのオーバーコート的なものから、ちょっとジャンパー的なものに変え

たというふうないきさつはございますが、人数もいる中で、なかなか予算的にも難しいところではあるというところで、その辺はご理解いただければなというふうに考えております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、谷中委員。

○谷中委員 はい。やはりね、1人10万円って言って、月にもお支払いということでは、なかなか厳しいというのもあるのですけれども、やはり冬なんか本当に寒いときにもいっしょに、雨でも雪でもとなると、本当にある程度きちんとした、その警察の全部ではなくても、一番上に着るものぐらひは、やはりきちんと、寒ければ、だってその上に何か着てしまうかもしれないではないですか。

そうすると、やはりその交通指導員さんというのが見えないというのは、ちょっとなというのもあるので、やはりそういうものもきちんと予算はとってやるべきではないかと思っているのですが、今年はね、そうではないというのがありますけれども、どうでしょうか。

○横尾委員長 はい、どうぞ。

○佐藤生活課長 すみません。

今、皆さんにお渡ししている制服でも、ジャンパーがあります。

防寒服としての、以前のものとちょっと違はなっていますが、防寒服としてのジャンパーのほうもお渡ししている状況になっております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 どうぞ。

○谷中委員 はい。すみません。

その防寒服をもらった人からの声なのですが、「前はすごく警察みたくて分厚くて暖かったけど、今回は、それと比べると、そんなに暖かくないというか、短めなのかな」、何かそんなふうなことも聞いているので、やはりきちんと頼む以上は予算もとって、やはりそういう人たちの健康についてもね、やっぱりそういうことも考えてあげられるような予算の組み立てにさせていただけるようにはお願いしたいと思います。

今後です。よろしく申し上げます。

○横尾委員長 はい。

では、藤田委員。

○藤田副委員長 では、すみません。藤田です。

68ページ、水源地域振興に関するご説明の中で、下流圏、下流地域との交流事業のお話がありましたが、それが具体的にどんなふうなものなのか。

それで、その事業には、スノーピークさんもかかわっていくことなのか、その辺、お聞きしたいと思います。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○大場地域課題対策課長 はい、地域課題対策課長の大場です。

下流圏との交流ということで、上下流交流、これ既に毎年やっております、引き続き今後もやっていくということで、予算化しております。

具体的には、今までのやり方と同じようなやり方をしていくのですけれども、そば打

ち体験というのを地元の、スノーピークの施設でそばを打つ、上南摩の方たちにお手伝いをお願いして、そば打ちを一緒にやってというような交流事業を、大体1回当たり30人ぐらいで、下流圏全部というわけにはいかないの、順繰りで、今年度は、実は川口市とやらせていただいて、来年度は1カ所か、2カ所ぐらい、引き続きやっていこうというふうに考えているものでして、そういったものが、上下流交流として考えているものでございます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、藤田委員。

○藤田副委員長 そこにスノーピークさんがどうかかわっていくのかをお聞きしたいのですけれども、よろしいでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○大場地域課題対策課長 地域課題対策課長の場です。

すみませんでした。

それで、スノーピークさんの、例えば職員の方にご協力とか、そういうのはないのですが、場所をお借りして、今までは南摩のコミュニティセンターで上下流交流を行っていたのですが、新しくできた施設のほうで、そちらの事業をやりたいというふうに考えております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、藤田委員。

○藤田副委員長 はい。では、あくまでも、この交流事業に関しては市が主体となってやっていくということなのですが、それで、ちょっと、もしかすると、これ経済部のほうのってなってしまうかもしれませんが、ちょっとあえて聞きたいのですけれども、スノーピークさん自身の会社の運営自体を懸念する声を市民の方からも聞くのですね。

私もいろいろ、何か聞くのですけれども、「そもそもスノーピーク、この先大丈夫なかい」って言う方がいるのですよ。

それで、その辺、市として、どんなふうに見ているのか。

大丈夫だから予算を組んでいるのでしょうかけれども、その辺、そういう声に対して、どんなふうを考えているのかだけ、ちょっとお聞きしたいのですけれども、よろしいでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○藤田副委員長 あえての質問ですみません。

○横尾委員長 秋澤部長。はい。

○秋澤総合政策部長 はい。それでは、このスノーピークについては、ようやくできました水源振興拠点施設ということで、指定管理者としても、スノーピークが運営するというので、そこまで決定をしております。

それで、先日ですね、報道で、スノーピークの売り上げの部分だと思うのですけれども、前年比99%の減というような、実は私も見て、幸先悪いなという、ちょっと印象を受けたのですけれども、はい。

そういった状況ですけれども、ただ、今回施設の運営については、スノーピークのほうも、こちらの鹿沼の施設のほうで、特に関東初という触れ込みもありますし、また、

スノーピークの施設で、これ温泉つきの施設というのは、ほかにはないのですよね。

そういった売りの部分もありますので、現在4月のオープンに向けて、先日横尾議員のご質問にも答弁の中でお答えしたのですけれども、東武鉄道さんのほうとも連携しながら、ちょっと今PRを強化しているところですので、まずはこの経営上、報道を見ますと心配な部分はあるかと思うのですが、まずはオープンに向けて、ここは、どんどんお客さんに来てもらえるような振興策というのは、市のほうも、一緒になってやっていきたいと思っておりますので、まずはちょっと見守っていただければというふうに思いますので、よろしくお祈いします。

○横尾委員長 どうぞ。

○藤田副委員長 大丈夫であろうということで、進んでいるのですけれども、一応、万が一ということは想定しておいたほうが、何か私はいいような気がします。

表立っては、これ市民に対して、「そこまで市はやってますよ」ということをあえて言う話ではないのですけれども、やはり万が一ということもあるので、何か100%全部お願いしていたら、「あれ？」というのって、何か、ほかの行政の事業とかでも、何か、どこかであった気がするので、そういう想定というのは、想定内に入れておいてほしいなというふうに、これ、すみません、要望になってしまいますが、すみません、ひとつよろしくお祈いします。

○横尾委員長 はい、どうぞ。

○秋澤総合政策部長 はい。あちらはですね、あくまでもこれは市の公共施設ですから、その運営ということで、今回はスノーピークさんのほうにお願いしております。

ただ、今議員さんおっしゃられたように、そういった懸念もあるということは、十分、私どもも念頭に置きながら、あくまでも、もし、スノーピークがだめであれば、また、指定管理のほうを探すというような作業には入ってくるかと思うのですが、そういったリスクなんかも常に念頭に置きながら、運営のほうは進めていきたいと思っておりますので、よろしくお祈いいたします。

以上です。

○横尾委員長 はい、ありがとうございました。

特にないですね。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第2号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第2号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第7号 令和6年度鹿沼市粕尾財産区特別会計予算についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第7号 「令和6年度鹿沼市粕尾財産区特別会計予算について」、主な内容をご説

明いたします。

「予算に関する説明書」の下から2番目のインデックスになりますが、粕尾財産区特別会計の3ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明いたします。

上から3段目、2款「繰入金」1項1目「財政調整基金繰入金」17万5,000円につきましては、財産区の管理費などに充てるため、「粕尾財産区財政調整基金」から繰り入れるものであります。

次に、歳出についてご説明いたします。

5ページをお開きください。

一番上の段、1款「管理会費」1項1目「管理会費」10万6,000円につきましては、管理会会長及び委員報酬などを計上したものであります。

以上で、「令和6年度鹿沼市粕尾財産区特別会計予算」の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

質疑のある方はお願いいたします。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第7号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第7号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第8号 令和6年度鹿沼市清洲財産区特別会計についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第8号 「令和6年度鹿沼市清洲財産区特別会計予算について」、主な内容をご説明いたします。

「予算に関する説明書」の一番下のインデックスになります。清洲財産区特別会計の3ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明いたします。

上から3段目、2款「繰入金」1項1目「財政調整基金繰入金」131万9,000円につきましては、財産区の管理費などに充てるため、「清洲財産区財政調整基金」から繰り入れるものであります。

次に、歳出についてご説明いたします。

5ページをお開きください。

中ほどの、3款「財産費」1項1目「財産管理費」122万8,000円につきましては、区有林の植栽や下草刈り及び忌避剤散布に係る負担金などを計上したものであります。

以上で、「令和6年度鹿沼市清洲財産区特別会計予算」の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

何かご意見があれば、お願いをします。

特別質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第8号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第8号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第11号 令和5年度鹿沼市一般会計補正予算(第11号)についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第11号「令和5年度鹿沼市一般会計補正予算(第11号)」のうち、関係予算の主な内容についてご説明いたします。

「令和5年度補正に関する説明書」、表紙に一般会計(第11号)と入っているものの、3ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明いたします。

一番上の、11款「地方交付税」1項1目「普通交付税」の2億2,853万6,000円の増につきましては、国において普通交付税交付額の再算定が行われ、追加交付額が決定したことによるものであります。

中段の、14款「使用料及び手数料」2項5目「消防手数料」160万6,000円の増につきましては、危険物タンク検査等に係る手数料等の実績見込みにより、増額するものであります。

下段の、15款「国庫支出金」2項1目「総務費国庫補助金」1節「総務管理費国庫補助金」20万3,000円の増につきましては、本年度にデジタルデバインド対策として実施したスマホ教室事業の財源として、計上するものであります。補助率は10分の10であります。

次の、2節「戸籍住民基本台帳費国庫補助金」578万8,000円の減につきましては、住民基本台帳システム等への振り仮名の追加に関し、実施要領の変更に伴う補助金の増及びマイナンバー業務に係る人件費の実績見込みによる補助金の減により、合計として減額するものであります。

5ページをお開きください。

下段の、16款「県支出金」2項1目「総務費県補助金」772万3,000円の増につきましては、リーバス・予約バスの運行経費に対する県補助金について、本年度の実績を踏まえ、増額するものであります。

7ページをお開きください。

一番下の段の、18款「寄附金」1項1目「総務費寄附金」104万7,000円の増につきましては、コロナ対策などに対する寄附の受け入れ実績により、増額するものであります。

9ページをお開きください。

下から2段目、21款「諸収入」4項3目「雑入」の説明欄の3行目、「供託金帰属」30万円につきましては、本年度の市議会議員選挙に際し、有効投票総数より算出される供託物の没収点に達しなかった候補者の供託金について、公職選挙法に基づき、市に帰属するため、計上するものであります。

次の行の、「県税徴収費委託金過年度分」3,965万7,000円の増につきましては、過年

度分として収入となったことにより、令和5年度予算に計上するものであります。

一番下の段の、22款「市債」1項1目「総務債」160万円の減につきましては、新庁舎整備事業の実績に合わせ、借り入れ額を減額するものであります。

次に、歳出についてご説明いたします。

13ページをお開きください。

一番上の、1款1項1目「議会費」の説明欄、「議員期末手当」229万2,000円の減につきましては、市議会議員の期末手当につきまして、改選による支給額の実績により、減額するものであります。

2段目の、2款「総務費」1項1目「一般管理費」の説明欄の1つ目の「○」、「退職手当基金積立金」2億48万円の増につきましては、令和6年度から加入する栃木県市町村総合事務組合に支払う次年度以降の退職手当負担金に備え、基金に積み立てるものです。

次に、3目「行政情報システム管理費」の説明欄、「行政情報ネットワーク管理事業費」391万円の減につきましては、行政情報ネットワークシステムの保守料や借上料等の実績見込みにより、減額するものであります。

次に、5目「交通対策費」の説明欄、「バス路線対策費」2,719万円の増につきましては、燃料費や人件費の高騰などの影響により、経費が増加しているリーバス等の安定運行に対し、「運行費補助金」の交付額を実績に基づき増額するものであります。

次の、8目「財産管理費」の右側の説明欄、上から2つ目の「○」、「減債基金積立金」1億2,141万7,000円の増につきましては、本年度の普通交付税において、令和6年度及び令和7年度の臨時財政対策債償還分として、追加交付された額を積み立てるものです。

なお、令和6年度及び7年度におきまして、積み立て額の2分の1ずつを繰り入れすることになります。

次の、「公共施設整備基金積立金」2,150万4,000円の増につきましては、本年度に救急車の購入費用として役立てていただきたいとのご意向から、お寄せいただきました寄附金などにつきまして、次年度以降に活用させていただくため、基金に積み立てるものであります。

次の、9目「集中管理費」の説明欄、1行目の「公用車等管理費」411万4,000円の減につきましては、更新を予定していたトラックが生産停止となったことから、令和6年度に改めて予算に計上することとし、減額するものであります。

一番下の段の、3項1目「戸籍住民基本台帳費」の説明欄、「住民基本台帳費」603万6,000円の増につきましては、法改正による住民票等への振り仮名記載に当たり、12月の補正で関係予算を計上いたしましたが、実施要項が改正され、改修範囲が拡大したことに伴い、事業費を増額するものであります。

なお、要綱の改正により、システム改修にかかる期間が延長となる見込みであることから、12月定例会で議決をいただいた一般会計補正予算（第8号）に計上しました「戸籍事務費」及び「住民基本台帳費」と合わせまして、本補正予算におきまして、繰越明許費を設定しております。

15ページをお開きください。

上段の、4項3目「栃木県議会議員選挙費」204万円の減につきましては、栃木県議会議員選挙の執行に要した経費の実績に基づき、関係経費を減額するものであります。

次の、4目「市議会議員選挙費」1,539万5,000円の減につきましては、市議会議員選挙の執行に要した経費の実績に基づき、関係経費を減額するものであります。

25ページをお開きください。

2段目の、9款「消防費」1項1目「常備消防費」の17万1,000円の増につきましては、燃料単価の高騰に加え、消防車両の出動件数の実績見込みを考慮し、燃料費を増額するものであります。

14款「予備費」279万6,000円の増につきましては、歳入歳出の調整額を計上するものであります。

以上で、「令和5年度鹿沼市一般会計補正予算（第11号）」のうち、関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次発言を許します。梶原委員。

○梶原委員 梶原です。お願いします。

16ページ、市議会議員選挙費なのですがすけれども、その中の12節と18節ですね。

委託料で看板の作成がマイナス161万5,000円。

あと負担金もマイナス769万9,000円となっていますけれども、こちらの理由をお伺いします。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○湯澤選挙管理委員会事務局長 選挙管理委員会事務局長の湯澤です。

ただいまの質疑にお答えをいたします。

まずはじめに、看板の作成費、161万5,000円の減の内容ですが、こちらは看板自体の作成費、今回は33区画という大きな看板だったのですが、そちらを入札にかけたときの執行残という形になります。

もう一つの18の負担金の769万9,000円の残につきまして、主なものですが、こちらは、当初お一人、これ選挙公営の負担金になっております。

1人、ポスターですとか、郵便はがきですとか、そういった公営分の積算が100万円ほどになるのですが、平均75万円ほどの使用だったということ。

または、30名分の予算を立てておりましたが、実際申請された方が、25名だったということもありまして、こちらの残が発生しております。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。

○梶原委員 わかりました。

○横尾委員長 ほかにございませんか。

別段質疑、はい。

はい、梶原君、梶原委員。

○梶原委員 すみません。

ここで聞けるかどうかなので、31ページ。

繰越明許費の補正に関する調書の一番下ですね、3款民生費で、事業名が物価高騰緊

急支援給付金給付事業が、補正になっているのですけれども、これはここではないですかね。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。

○半田財政課長 はい。正確には、保健福祉部の所管という形になります。

こちらにつきましては、12月の補正で計上しました物価高騰緊急支援給付金事業の内容になります。

これにつきましても、1月・2月に全て執行、今、行っているところなのですが、一部につきましては繰り越しが見込まれることから、今回繰越明許費を計上することになります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、よろしいですか。

○梶原委員 はい。

○横尾委員長 ほかないですか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第11号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることでご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第11号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第14号 損害賠償の額の決定及び和解についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。はい、どうぞ。

○松島協働のまちづくり課長 はい、協働のまちづくり課長の松島です。よろしくお願いたします。

はい、議案第14号 損害賠償の額の決定及び和解についてご説明いたします。

議案第14号関係の資料をご覧ください。

まず、「事故の概要」についてであります。令和4年8月18日、鹿沼市戸張町地内におきまして、国道121号線及び市道5270号線との丁字路交差点におきまして、市民部職員が運転する軽乗用自動車市道から国道に右折する際、国道を南進してきた普通乗用車と衝突し、同乗者が負傷したものであります。

こちらの事故におけます過失割合につきましては、市側が9割となっており、損害賠償の額149万646円を支払い、和解するためのものであります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。説明に対しまして、何かご質問があれば、お受けいたします。

ございませんか。

はい、別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第14号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第14号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 15 号 辺地に係る総合整備計画の変更についてを議題といたします。
執行部の説明をお願いします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 はい、財政課長の半田です。

議案第 15 号 「辺地に係る総合整備計画の変更」についてご説明いたします。

お手元の議案書、議案第 10 号の記載のあるページをお開きください。

今回の議案は、令和 4 年度から令和 8 年度までの 5 年間を期間とする辺地総合整備計画について、その一部を変更するものであります。

まず、辺地の概要についてご説明させていただきます。

辺地とは、「交通条件及び自然的、経済的、文化的諸条件に恵まれない山間地」と定義されておりまして、政令等の要件を満たす地域の施設整備事業などに、充当率 100%、さらに、元利償還金の 80%を交付税措置される有利な起債が可能となる制度であります。

本市には、「入粟野・中粟野辺地」「上粕尾・中粕尾辺地」「西大芦辺地」「上久我辺地」の 4 つの計画があり、そのうち今回は、「入粟野・中粟野辺地」について計画事業の変更を行うものであります。

具体的な内容につきましては、議案書をお開きください。

まず、上から「1 辺地の概況」及び「2 公共的施設の整備を必要とする事情」につきましては、先ほど申し上げました、諸条件に恵まれないとする条件等が整備してございます。

次のページをご覧ください。この表が「入粟野・中粟野辺地」の整備計画概要となりますが、今回の変更点につきましては、下の 2 段の事業について、令和 6 年度に事業実施を予定したいことから、計画を変更するものであります。

まず、上から 3 段目の、前日光つつじの湯交流館におきまして、施設の老朽化に伴い、空調機器のリニューアル事業に係る費用について、事業費総額 6,000 万円を新たに追加するものであります。

また、4 段目の、拍子木橋、この橋は前日光つつじの湯交流館の入り口に架かる橋となっておりまして、こちらにつきましても、長寿命化対策を図るため、工事に係る費用につきまして、事業費総額 4,650 万円を新たに追加するものであります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、執行部の説明は終わりました。

ご質疑はございますか。はい、梶原委員。

○梶原委員 梶原です。お願いします。

先ほど説明いただいた整備計画の中の拍子木橋の長寿命化なのですが、この特定財源が 2,530 万円となっていますけれども、特定財源は何ですかね。

○横尾委員長 はい、どうぞ。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

こちらの特定財源は、橋梁の長寿命化に係る国庫補助金になります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい、梶原委員、はい。

○梶原委員 了解です。

○横尾委員長 はい。では、橋本委員。

○橋本委員 橋本です。

この辺地度数、132点ということなのですが、これの算出の仕方と、その対象になるのは何点以上とか、そういうところをもし、もう少し詳しく教えていただき。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○半田財政課長 はい。辺地の点数につきましてになります。要件としましては3つございます。

まず、その辺地の中心地区から公共交通機関を利用できない距離がまず1点。

2点目が、各公共施設まで最短距離として、公共交通機関のバス停等までの距離など。

3点目としましては、公共交通機関の往復回数や、往復回数等に基づく計算定数の合計となっております。

なお、こちらの中で、辺地の中心地から5キロ平方メートル以内の面積の中に、人口が50人以上いることが前提条件となっております。

こちらのほうにつきましては、その計算結果、今手元にはないのですが、一応そちらの国の基準に基づいて積算した結果の点数となっております。

それで、辺地のほうは100点以上が該当するという形になります。

よろしく願いいたします。

○横尾委員長 はい。ほかにごありますか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第15号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第15号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第18号 物品購入契約の締結についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、亀山契約検査課長補佐。

○亀山契約検査課長補佐 はい、契約検査課長補佐の亀山です。よろしく願いいたします。

議案第18号 「物品購入契約の締結」についてご説明をいたします。

鹿沼市栗野地区学校給食共同調理場食器・食缶洗浄機購入の指名競争入札の結果、日本調理機株式会社栃木営業所が税込み4,290万円で落札したので、本契約を締結するためのものであります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。ただいまの説明に対し、何かございますか。はい、梶原委員。

○梶原委員 梶原です。

これ入札ができましたと。

それで、工期というのはいつぐらいなのでしょう。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○平田学校給食共同調理場長 学校給食共同調理場長の平田です。よろしく願いいたします。

先ほどの質問にお答えいたします。

工期は春休み期間中を予定しておりまして、3月22日から31日までの予定で、実施することになっています。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。答弁は終わりました。

○梶原委員 わかりました。以上です。

○横尾委員長 はい。

ほかにごございますか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 18 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 18 号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 23 号 鹿沼市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律施行条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。はい、柿沼課長。

○柿沼デジタル政策課長 デジタル政策課長の柿沼です。よろしくお願いします。

議案第 23 号「鹿沼市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律施行条例」の一部改正についてご説明いたします。

配付資料の 3 ページのほうで、新旧対照表になっております。

まず、条例の改正の背景について、先に説明させていただきます。

この長い法律、「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」は、いわゆる番号法、マイナンバー法のことです。

マイナンバーを利用できる事務やマイナンバーの運用のルールなど、そういったものを規定したものになります。

行政手続で必要な情報を情報提供ネットワークシステムというものを利用して、自治体間などで相互に照会、または提供ができる情報、例えば、所得の情報や健康保険の情報、こういったものも、この番号法に定められています。

また、この法に準じて、各自治体が条例で定める場合、これもマイナンバーが利用できるとされており、鹿沼市でもその条例を定めており、今回の改正の対象になる本条例がその条例になります。

昨年 6 月、国においてマイナンバーの利用拡大を図るため、番号法等を改正する法律が公布されています。

本条例の規定には、番号法から引用している文言などがあるため、この法改正に伴い、条例の改正が必要となるものです。

主な改正内容は、2 点あります。

まず、「利用特定個人情報」「特定個人番号利用事務」といった新たな用語の定義がされたことにより、条例の文言を修正することです。

2 点目は、改正前の番号法では、照会、または提供ができる特定個人情報について「別表第 2」というものがありまして、そこに表記されておりました。

改正によりまして、この「別表 2」が削除されましたことから、それを引用する部分を、本条例の「別表第 2」に新たに明記するものです。

以上で、議案第 23 号の説明を終わります。

○横尾委員長 はい、執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次発言を許します。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 23 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 23 号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 24 号 鹿沼市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。はい、小泉人事課長。

○小泉人事課長 人事課長の小泉です。よろしくお願いいたします。

議案第 24 号 「鹿沼市職員の勤務時間、休日及び休暇に関する条例の一部改正について」ご説明いたします。

お手元の新旧対照表の 5 ページをご覧ください。

本議案につきましては、人事院規則の改正に伴い、夏季休暇の取得について、業務が繁忙期であることなどの理由により、従前の 7 月から 9 月までの期間に休暇の取得が困難であるという職員が生じていることから、前後に 1 カ月ずつ拡大いたしまして、6 月から 10 月まで取得可能とするものであります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

質問に対し、質疑はございませんか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 24 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 はい、ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 24 号については、原案どおり可とすることに決しました。

続けます。

次に、議案第 25 号 鹿沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明を求めます。はい、小泉人事課長。

○小泉人事課長 人事課長の小泉です。よろしくお願いいたします。

議案第 25 号 「鹿沼市会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正について」ご説明いたします。

お手元の新旧対照表の 6 ページをご覧ください。

本議案は、地方自治法の一部改正に伴い、令和 6 年度から会計年度任用職員に対し、勤勉手当の支給を可能とするためのものであります。

支給となる者は、フルタイム、パートタイムを問わず、現在の期末手当の支給要件を満たしている会計年度任用職員全てが対象となります。

なお、勤勉手当の支給に当たりましては、人事評価制度における業績評価が必要となることから、現在、評価する項目や実施時期等について検討を進めているところであり

ます。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

ただいまの説明で、質疑のある方は発言を認めます。梶原委員。

○梶原委員 はい。今、勤勉手当を出すための人事評価というか、を考えているということなのですけども、これ、やっぱり自己評価とか、上司の評価とか、いろいろかかわってくると思うのですけれども、どういったこと、流れになるのでしょうか。

○横尾委員長 はい。答弁を求めます。小泉人事課長。

○小泉人事課長 はい。人事課長の小泉です。

我々、既に正職員のほうは、こちらの人事評価、業績評価のほう、もう既に実施しておりますが、まず、年度の当初に自分で目標を立てまして、それで、その目標の難易度とか、そのスピードとか、その辺を勘案しまして、自分でランクづけをいたします。

上司と期首面談をいたしまして、年度の途中で期中面談というものを行いまして、それで、年度末に期末面談というものを実施しまして、上司のほうから評価を受けまして、それで、それに応じて、期末手当の成績率が決まりまして、その成績比率に応じて、期末手当が支給されることとなります。

以上が、はい。

(「勤勉手当」と言う者あり)

○小泉人事課長 あ、そうですね、すみません。勤勉手当になります。

はい。以上で説明を終わります。

○梶原委員 わかりました。

○横尾委員長 はい、よろしいですか。

ほかにございませんか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 25 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 25 号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 26 号 退職手当の支給事務等を栃木県市町村総合事務組合において共同処理することに伴う関係条例の整理に関する条例の制定についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、小泉人事課長。

○小泉人事課長 はい。人事課長の小泉です。よろしくお願いいたします。

議案第 26 号 「退職手当の支給事務等を栃木県市町村総合事務組合において共同処理することに伴う関係条例の整理に関する条例の制定について」 ご説明をいたします。

お手元の議案書と新旧対照表の 8 ページをご覧くださいと思います。

本議案は、前回の 12 月定例会におきまして、本市職員の退職手当を支給するための事務及び市議会議員や会計年度任用職員等の公務災害補償の事務を、栃木県市町村総合事務組合において共同処理とするために同組合の規約を変更することにつきまして、議決をいただきました事に関連しまして、「鹿沼市職員の退職手当に関する条例」など、3 本を廃止するとともに、「鹿沼市職員の育児休業等に関する条例」など、11 本を改正する

ものであります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 ただいまの執行部の説明に対し、何か質疑のある方はございますか。
別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 26 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 26 号については、原案どおり可とすることに決しました。

トイレ、はい、トイレという声がかかりましたので、ちょっと暫時休憩をいたします。
10 分、35 分ぐらい。

(「はい」と言う者あり)

(「はい、35 分まで」と言う者あり)

○横尾委員長 2 時 35 分。

(午後 2 時 24 分)

○横尾委員長 はい、時間が押しておりますので、予定よりちょっと早めなのですが、始まりたいと思います。

それでは休憩前に引き続き、会議を開きます。

(午後 2 時 33 分)

○横尾委員長 次に、議案第 27 号 鹿沼市手数料条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい。半田財政課長。ではないか。はい。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第 27 号 「鹿沼市手数料条例の一部改正」についてご説明いたします。

今回の改正は、法律及び政令の改正に伴い、建築指導課及び予防課の所管する事務について、手数料条例の一部を改正するものになります。

まず、令和 4 年 6 月 17 日に公布されました「脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律」の段階施行における 2 年目施行分としまして、既存建築物の省エネ改修や再エネ設備の導入促進による省エネ対策の加速化を図るため、令和 6 年 4 月 1 日に「建築物エネルギー消費性能の向上に関する法律」及び「建築基準法」の一部改正が施行となります。

内容につきましては、「建築基準法」の改正に伴う既存不適格建築物の接道義務に関する建築基準法令の適用除外認定制度及び既存不適格物建築物の道路内建築制限にかかる建築基準法令の適用除外認定制度が拡充されたことから、新たに追加された認定手数料を設定するものです。

また、「建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律」の改正に伴い、法律名が変更となることから条例内における名称変更のほか、法改正に伴う所要の改正を行うものであります。

なお、手数料の設定につきましては、栃木県が令和 6 年 2 月議会において同様の改正を行う予定であり、県内の特定行政庁におきましても同様の改正を行う予定であります。

次に、令和 5 年 12 月 6 日「地方公共団体の手数料の標準に関する政令の一部を改正す

る政令」が公布され、浮き屋根式特定屋外タンク貯蔵所、浮き蓋付き特定屋外タンク貯蔵所の設置の許可に関する審査手数料が改正になりました。

「地方公共団体の手数料の標準に関する政令」においては、全国的に統一して定めることが特に必要と認められる事務において、政令で標準とする手数料を定めた上で、条例で定めるとされていることから、本条例を改正するものであります。

なお、屋外タンク貯蔵所の屋外貯蔵タンクの多くは、ガソリンなど、揮発性の高い危険物を貯蔵する施設であります。いずれのタンクも市内への設置はなく、現時点におきまして、設置予定もございません。

施行期日につきましては、令和6年4月1日としております。

以上で、説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次発言を許します。梶原委員。

○梶原委員 梶原です。お願いします。

これ、建築物のエネルギー消費性能向上等に関する法律が令和4年6月17日に公布になりましてということで、変更になっていると思うのですがけれども、今回その54・55号で、不適格建築物が建築基準法令の適用除外にできるようにするための認定の申請というふうに法律が変わったということによろしいですかね。

○横尾委員長 答弁を求めます。はい、どうぞ。

○埴建築指導課長 はい。建築指導課、埴でございます。

ただいまのご質問にお答えいたします。

建築基準法におきまして、まず建物を建てる際であるとか、あと外壁を全部はがして、例えば断熱材を外から張って、また外壁を戻すというような工事を行う際には、建物が道路に接道していないと、そういう工事はできませんよという決まりがございます。

今回の改正につきましては、それを認定として、認定をとれば、その接道がなくても、そういう改修ができるよと。

例えばなのでございますけれども、先ほど申し上げたような、断熱材を外に張るという工事をするのに手続が必要なのでございますけれども、それを認定をとることによってできるようになりますよという改正でございます。

以上でお答えいたします。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 あわせてその50号のほうも、この道路内建築制限に関するところでは、例えばどういった例が考えられるのでしょうか、教えてください。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○埴建築指導課長 建築指導課、埴でございます。

道路内建築のものにつきましては、通常2項道路と呼ばれるような、道路後退を余儀なくされる建物があるのですが、そういうものについても、例えば、大規模のエネルギーに対する工事を行う際には、道路に一部飛び出したままであっても認定をとれば、それを許してあげるよというような形の法改正に変わるということでございます。

以上でございます。

(「サル知恵かな」と言う者あり)

（「エネルギーに関して、それだけやっていいとか」と言う者あり）

（「既存、既存」と言う者あり）

○横尾委員長 納得しましたか。

（「しませんですよ」と言う者あり）

○横尾委員長 しないな、はい、どうぞ。

○埴建築指導課長 はい、建築指導課、埴でございます。

ちょっと建築基準法自体がかなり煩雑になってきてございまして、今回のエネルギーに関するものなんか絡んできているということで、とても煩雑になっているのですが、本来は工事をするのに、手続を踏んで、それでやらなければいけない。

先ほど申し上げたように、道路に接していなければ工事をできないのですが、今回ある程度のエネルギーに対するもの、外壁の断熱材を張りかえる工事であるとか、屋根面に断熱材を乗せて多少高くなってしまったりとか、そういうものに対してのみ、多少の緩和をかけて、エネルギーの向上をねらっていくという形のものになりますので、内容としては、そういう感じのものになります。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 そうすると、それに、そのエネルギーに関する部分の改築もあわせて、リフォーム関係を加えた場合というのも、これ、申請で認定されてしまうものなのですか。

○埴建築指導課長 はい。お答えいたします。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○埴建築指導課長 はい。お答えいたします。

住宅なんかでありますと、ちょっと今建築基準法上の4号物件、6条1項4号物件という形の言い方をするのでありますが、手続が不要なものもございまして。

ただ、ある程度一定規模以上の建物になりますと、建築確認申請をとらなければならないというものにもなってくるのですが、認定をとることによって、そういうものもできるようにしてあげますよという形の取り扱いになります。

以上でございます。

○横尾委員長 はい、梶原委員。

○梶原委員 そうすると、これ、もう古い家なのだけれども、これの法律をかさに、いろいろ家の修繕とか加えることが可能ということでしょうか。

○横尾委員長 答弁を求めます。

○埴建築指導課長 はい。そういうことになります。

○横尾委員長 はい、了解ですね。はい。

（「しようがない」と言う者あり）

○横尾委員長 はい、大丈夫です。

ほかにもございますか。はい、梶原委員。

○梶原委員 別表3のほうですね、この消防法にかかわるところの浮き屋根式特定野外タンク貯蔵所関係ですけれども、政令で統一的に料金が変わるということでは、では、もうほぼ同様の市というのは、同様の金額に改定されるような運びになっているということでしょうか。

○横尾委員長 はい、答弁を求めます。

○曾篠予防課長 予防課長の曾篠です。

梶原議員の質問にお答えします。

全国的に、同一金額ということになります。

以上で説明を終わります。

○梶原委員 わかりました。

○横尾委員長 ほかないですか。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 27 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 27 号については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 43 号 令和 6 年度鹿沼市一般会計補正予算(第 1 号)についてのうち、総務常任委員会関係の予算を議題といたします。

執行部の説明をお願いします。半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第 43 号 「令和 6 年度鹿沼市一般会計補正予算(第 1 号)」のうち、関係予算の内容について、ご説明いたします。

今回の補正につきましては、国の「デフレ完全脱却のための総合経済対策」として実施する、給付金・定額減税一体支援のうち、令和 6 年度に新たに住民税非課税世帯となる世帯、住民税均等割のみ課税となる世帯への給付事業及びそれぞれの低所得子育て世帯への子ども加算給付事業などのほか、国の令和 5 年度補正予算に伴う令和 5 年度予算への事業の組み替え等について、補正を行うものであります。

お手元の「令和 6 年度補正予算に関する説明書」、表紙に一般会計(第 1 号)と入っているものの、3 ページをお開きください。

まず、歳入についてご説明いたします。

一番上の、15 款「国庫支出金」2 項 1 目「総務費国庫補助金」9 億 9,153 万 2,000 円の増につきましては、住民税非課税世帯等に対する給付金事業の財源として計上するものであります。

補助率は 10 分の 10 であります。

次に、歳出についてご説明いたします。

5 ページをお開きください。

一番上、2 款「総務費」2 項 2 目「賦課徴収費」220 万円の増につきましては、国の施策として実施する令和 6 年度の住民税の定額減税に伴い、課税計算等に係るシステム改修費を計上するものであります。

一番下の、14 款「予備費」6,645 万 9,000 円の増につきましては、歳入歳出の調整額として計上するものであります。

以上で、「令和 6 年度鹿沼市一般会計補正予算(第 1 号)」のうち、関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

質疑のある方は順次受けます。

質問はございませんか。

いいですね。

○横尾委員長 別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 43 号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 はい。ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 43 号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることに決しました。

次に、議案第 44 号 令和 5 年度鹿沼市一般会計補正予算 (第 12 号) についてのうち、総務常任委員会関係予算を議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、半田財政課長。

○半田財政課長 財政課長の半田です。

議案第 44 号 「令和 5 年度鹿沼市一般会計補正予算 (第 12 号)」のうち、関係予算の内容について、ご説明いたします。

今回の補正は、令和 6 年度に予定しておりました小学校の校舎等施設整備事業費について、国の令和 5 年度補正予算に伴い、国庫補助の採択が令和 5 年度に前倒しとなったことから、年度間の予算の組み換えなどを行うものであります。

お手元の「令和 5 年度補正予算に関する説明書」、表紙に一般会計 (第 12 号) と入っているものの、5 ページをお開きください。

関係予算といたしまして、一番下、14 款「予備費」になりますが、歳入歳出予算の調整額として、1,350 万 2,000 円を減額するものであります。

以上で、関係予算の説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明が終わりました。

説明に対し、何かご意見がございましたらお願いをします。

はい、どうぞ。梶原委員。

○梶原委員 これ、予備費しか聞けないですかね。

(「予備費しか聞けない」と言う者あり)

○横尾委員長 確かに。

○梶原委員 一応、これ、何ですかね。組み替えているのではないですか。

それで、そうか。

「工事はいつやるんですか」って言われ、令和 6 年度の予算だから、すみません。できなかつたです、質問。

○横尾委員長 では、次の、また、その次。

ほかないですね。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 44 号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 44 号中、総務常任委員会関係予算については、原案どおり可とすることに決しました。

続きまして、議案第 45 号 鹿沼市税条例の一部改正についてを議題といたします。

執行部の説明をお願いします。はい、鈴木税務課長。

○鈴木税務課長 税務課長の鈴木です。よろしくをお願いします。

それでは、議案第 45 号 鹿沼市税条例の一部改正についてご説明いたします。

令和 6 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震の被災者を税制面から支援するため、地方税法の一部を改正する法律及び地方税法施行令の一部を改正する政令が、令和 6 年 2 月 21 日に公布され、同日から施行されました。

能登半島地震災害において、自宅や家財等の保有資産に被害のあった方、その損失額に応じて個人住民税を軽減する「雑損控除」につきましては、現行では令和 7 年度の住民税に適用されるところですが、この法改正により、特例として、1 年前倒しをし、令和 6 年度分の住民税への適用を認めるものとなります。

以上を踏まえまして、栃木県が示す準則に基づき、鹿沼市税条例の附則第 5 条の次に、能登半島地震災害にかかわる雑損控除額の特例について規定する 1 条を追加するものがあります。

以上で説明を終わります。

○横尾委員長 はい。執行部の説明は終わりました。

何かご質疑があれば、お受けをいたします。

ございませんね。はい。

別段質疑もないようですので、お諮りをいたします。

議案第 45 号については、お静かにお願いします。

議案第 45 号については、原案どおり可とすることにご異議ありませんか。

(「異議なし」と言う者あり)

○横尾委員長 ご異議なしと認めます。

したがって、議案第 45 号については、原案どおり可とすることに決しました。

以上で、今議会において、本委員会に付託されました案件の審査は全て終了いたしました。

長時間にわたりまして、大変ありがとうございました。

おかげさまで、全部終了いたしました。

これをもちまして、総務常任委員会を閉会いたします。

ありがとうございました。

この後ですね、この会場で、総務常任委員会の継続調査をあまり時間をかけないでやりたいと思いますので、よろしくをお願いします。

(閉会 午後 2 時 5 3 分)